

○外一番曾補荒助 十四番議官ノ質問ハ甚々答辨ニ苦シム文部大臣ニ於テ認ムル者ハ本員ノ意思ヲ以テ推測スル能ハス其標準ノ高低ハ此法律發布ノ後ニ非サレハ確知スルヲ得サルナリ想フニ十四番議官ハ問ヲ誤マル無ランカ

○十四番加藤弘之 内閣委員ハ本官ノ問ニ對シ答辨ヲ爲サスト云フ然レハ本案ノ文意タル其之ヲ認ムルコトハ總テ文部大臣ニ委任シテ取捨ノ權ヲ其胸算ニ歸セシメ他人ハ此ニ議ヲ容ルル能ハスト爲スニ在ルナラン然ルニ大體ノ標準ヲモ立ル無クシテ只之ヲ文部大臣ノ胸算ニ委スト爲スヤ文部大臣其人ハ自ラ定見ヲ具セサルニ非サルモ全國内ノ學校ノ多キ其調査ハ文部大臣一人ノ能ク處理スル所ニ非スシテ必ス書記官參事官ニ評定セシムルナラン果シテ然ラハ其評

定ヲ爲スニハ學校ノ規則校長ノ人品及ヒ教員ノ學力等皆調査ス可キ範域内ニ在ル可ク是時ニ於テ一定ノ標準ヲ存セスンハ何ヲ以テ評定スルヲ得ンヤ單ニ文部大臣ノ認ムルニ委スト云ヘルハ本官ノ領會スル能ハサル所ナリ然ルモ内閣委員ノ言ノ如ク果シテ大略ノ標準モ之レ無キヤ

○外一番曾補荒助 是レ官立府縣立ノ學校ト同等ト云ヘルヲ以テ之カ標準ト爲スナリ即チ「之ト同等」云云ノ文字ヲ觀ハ其標準ハ充分ニ明白ナリト信ス

出席 十一番 渡邊 清

○三十二番三浦安 本官ハ此改正案ニ對シ異見ヲ懷カス又質問ヲ要セス本案ノ目的ハ全ク學問ヲ重ンスルト文武兩進ノ主旨ヲ擴張スル

トニ在リ其他ハ諸島嶼ニ警備隊ヲ置ク一事ヲ加ヘタルナリ願フニ島嶼ニ警備隊ヲ置クハ尤モ現今ノ形勢ニ必要ニシテ輿論ノ企望スル所ナレハ必ス之レ無カル可ラス期限ヲ改定スル如キハ取扱上ノ事ナレハ是亦異議ヲ唱ヘス直ニ第二讀會第三讀會ヲ開カンコトヲ望ム

○議長 發議ナクハ第五百二十九號議案ノ第一讀會ヲ終ル引續キ第五百三十號議案ノ第一讀會ヲ開カン

○外一番會荒助 議長ノ演告ニ係ルモ本員ハ引續キ第五百二十九號ノ第二讀會ヲ開カンコトヲ望ム第五百三十號ハ簡短ニシテ別ニ議論ノ生ス可キ無シト思考スレハ先ツ本案ヲ議決シ而ル後ニ其第一讀會ヲ開クモ敢テ支障セサル可シ

○議長 各官モ聞ク如ク内閣委員ハ引續キ第五百二十九號ノ第二讀會ヲ開クヲ請求セリ之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十一人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開キ便宜ニ從ヒ條項ヲ連帶シテ朗讀セシム可シ

出席

十五番

渡邊

驥

書記官 森山茂 朗讀

第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ悉皆之ヲ警備隊ニ充テ該地内ニ於テ服役セシム但在營時間ハ一箇年以内トス

○五十九番 渡元 正 聊カ此處ニ修正ヲ加ヘン本官ハ第一讀會以來悉皆

ノ文字ニ異見ヲ懷キタリ過刻内閣委員ノ言ヲ聞クニ縱令ヒ悉皆ノ文字ヲ置クモ其免除ス可キ者ハ徵兵令ノ本則ニ遵フテ處分スト云ヘルモ第三項ハ島嶼ニ對スル特法ナレハ本則ト關係セサル如キノ看ヲ呈ス故ニ此ニ悉皆ト言ヘハ島嶼ノ人民ハ悉皆徵募ス可キ範圍内ニ在リテ復タ揀擇スルコトヲ爲サス即チ不具者ト雖亦徵集ヲ免ルル能ハサルニ似テ人ヲシテ疑惑ヲ生セシメントス若シ悉皆ノ文字ヲ除キテ「壯丁ハ」ヨリ直ニ「警備隊」云云ニ接續セシムルキハ島民ニ就テ自由ニ揀擇スルヲ得ヘク且徵兵令ノ本則ニ合スルヲ得ルナリ因テ「悉皆」ノ二字ヲ削除スル修正説ヲ提出ス

○四番楠本正隆 賛成ス「悉皆」ノ二字ハ音ニ無用ナルノミナラス之ヲ存スレハ却テ本則ニ背カン

○議長 五十九番ノ修正ハ賛成者アレハ問題ト爲ス

○外一番曾禰荒助 只今ノ修正ニシテ當ヲ得ハ固ヨリ沈黙ヲ守ル可キモ

其然ラサルヲ以テ一言セサル可ラス悉皆ノ二字ヲ存セサレハ抽籤ノ一事ニ支障ヲ致シ且特別法ノ本旨ニ乖戾ス島嶼ノ壯丁ハ悉皆警備隊ニ充ル者ニシテ抽籤法ヲ以テ揀擇スルニ非サレハ必ス此二字ヲ存セサル可ラス故ニ現修正説ノ消滅ニ歸センコトヲ望ム

○十一番渡邊清 時機ニ後レタルモ聊カ質問セン悉皆ノ二字ヲ削除スレハ本則ト同一ニシテ特別法ノ本旨ニ乖戾スト云ヘハ現問題ハ不可ナラン然ルニ在營一箇年以内ト言フヲ以テ之ヲ觀レハ其特別法タルコトハ已ニ明白ナリ故ニ只其抽籤ニ支障スルヲ以テ悉皆ナル文字ヲ削除ス可ラスト云フハ分明ヲ缺ク思フニ徵集方法ハ主務省別

ニ之ヲ定ムルナラン否ラサレハ別ニ修正説ヲ提出セントス

○外一番會荒助 十一番ハ徵集方法ノ何如ヲ質問セリ即チ島嶼ノ人民

ヲ徵集スルニハ抽籤ヲ用ヒサル一事ノ内地ト異ナルノミ其體格等
ヲ檢査シテ之ヲ取ルニ至テハ毫モ内地ト異ナラサルナリ

○六番幸林友 本官ハ原案ノ如クシテ支障セスト思考ス必シモ悉皆ノ

文字ヲ削除スルヲ要セス此文字ヲ存スルモ便宜ニ隨ヒテ取捨スル
ハ固ヨリ爲スヲ得サルニ非ス故ニ現問題ニハ同意セス

○五番正榎村 本官ノ意見モ問題説ニ反ス悉皆ノ文字ハ本則第八條ノ

抽籤ニ對スル者ナリ本則ハ當籤者ヲ以テ服役セシムルモ島嶼ノ壯
丁ニハ抽籤法ヲ施ササルコトヲ示ス爲メニ特ニ悉皆ノ文字ヲ加ヘタ
ルナリ

○五十九番渡元正 内閣委員ノ言ニ悉皆ノ文字ヲ除ケハ内地ノ人民ト

同シク抽籤ヲ以テ服役セシムルニ似テ事ニ支障スト云ヒ且其十一
番ノ間ニ答フルモ又抽籤法ヲ以テ服役セシメサル一事ノミ内地ト
異ナリト云ヘリ然レモ第八條第一項第二項共ニ抽籤ノ文字ヲ掲ケ
タルニ特ニ第三項ニ抽籤ノ文字ヲ掲ケサルモ其抽籤法ニ據ラサ
ルコトハ固ヨリ明白ニシテ決シテ悉皆ナル文字ノ有無ニ關セス故ニ
抽籤法云云ノ答辨ハ解ス可ラス却テ其答辨ニ因リテ益ス悉皆ナル
文字ヲ削除ス可キヲ證スルノミ

○十一番清渡邊 只今ノ辨解ニ因テ修正説ノ旨意ハ明白ナルモ直ニ之

ヲ賛成スル能ハス悉皆ノ文字ヲ存スルハ本官モ不同意ナレモ只之
ヲ削除スルニ止ムルハ亦不同意ナリ故ニ島嶼ノ壯丁ハ抽籤法ニ依

ラスト爲セハ意義更ニ明瞭ナラン少シク繁文ナルヤヲ知ラサルモ
悉皆ノ文字ヲ削除スル以上ハ之ニ換フル文字ヲ挿入セサル可ラス
故ニ現問題消滅セハ別ニ修正説ヲ提出セントス

○議長 現問題ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○十一番 渡邊 清 豫陳セシ如ク悉皆ノ二字ニ換フルニ抽籤ニ依ラスノ

六字ヲ以テセン此ノ如クシテ始メテ能ク抽籤法ニ依ラサル爲メニ
其在營ヲ一ケ年以内ト爲セル本項ノ旨意ヲ明白ナラシムルヲ得ヘ
キナリ

○四番 楠本 正隆 悉皆ナル文字ハ抽籤ノ有無ニ關係シテ事ニ支障ス只今

ノ修正ノ如クニシテ始テ明白ナルヲ覺フレハ之ヲ賛成ス

○議長 十一番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 曾禰 荒助 抽籤ニ依ラスト爲セハ海軍又ハ近衛兵ニハ島嶼ノ壯

丁ヲ揀取スルモ可ナリトスルニ疑ヒ有リ原案ノ如ク「悉皆之ヲ警
備隊ニ充テ」ト爲セハ決シテ此疑ヒヲ生セス且ヤ悉皆ノ文字ヲ存
スルモ固ヨリ其中ニ就テ取捨撰擇スル者ニシテ決シテ其事狀ヲ斟
酌セス悉皆服役セシムト云フニ非ス此點ニ關シテハ各官ノ意ヲ安
センコトヲ請フ

○議長 十一番ノ修正ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者四十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十一條第十二條第十八條第二項第十九條中小學校ヲ除クノ下第二十條

第三項第五項中「學校」ノ下ニ各左ノ十九字ヲ加フ

及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校

○二十四番 小畑美稻 少シク修正セン及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト

同等ノ學校」ノ下ニ醫學校ノ文字ヲ添フル是ナリ單ニ學校ト云ヘ

ハ或ハ醫學校ノ其中ニ入ラサルヤニ疑ヒ有レハ之ヲ明示センカ爲

メナリ

○議長 二十四番ノ修正ハ賛成者ナケレハ問題ト爲ラス只今朗讀ノ
各項ハ可決ト認ム

書記官 森山茂 朗讀

第二十三條中「九月十六日」トアルヲ「四月十六日」ト改ム

第二十四條中「一區」ヲ設ク「ノ下ニ」又警備隊ヲ置キタル島嶼ハ各別

ニ一區ト爲ス」ノ二十字ヲ加フ

第三十四條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

第三十五條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

同條中「翌年四月十日」トアルヲ「十一月二十日」ト改ム

第三十六條中「其年ノ九月一日」トアルヲ「其年十一月二十一日以後

係ル者ハ翌年四月一日」ト改ム

同條中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六日以
後十一月二十日以前」ト改ム

第三十七條中「八月十五日迄」トアルヲ「三月十五日迄」ト改ム

第四十條中「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第四十二條中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム

○十六番村田保 聊カ文字上ノ修正ヲ加ヘン第三十七條ニ八月十五日

迄云云三月十五日迄云云ト二ツノ迄ノ字ヲ用ヒタリ前各條ヲ通觀
スルニ皆迄ノ字ヲ除去シテ煩冗ヲ避タルニ獨リ此ニ至テ一條中ニ
迄ノ字ヲ重子用ヒタルハ異例ナリ故ニ二所ノ迄ノ字ヲ削除セント
ス

○五番旗村正直 賛成

○議長 十六番ノ修正ハ賛成者アレハ問題ト爲ス

○曾禰外一番荒助 二ノ迄ノ字ヲ削除スルニハ別ニ抗論セス

○議長 十六番ノ修正ノ決ヲ取ラン之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十二人

○議長 多數ナレハ修正説ニ決ス

○曾禰外一番荒助 引續キ第三讀會ヲ開カンコヲ望ム

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十六人

○議長 多數ナリ直ニ第三讀會ヲ開ク朗讀ヲ省キ全案ヲ議題ト爲ス
明治十六年十二月 第四十六號布告徵兵令中左ノ通改正追加シ明治二
十年四月一日ヨリ施行ス但第八條ニ追加ノ項ハ直ニ施行ス

第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ悉皆之ヲ警備隊ニ充テ該地内ニ於テ服役セシム但在營時間ハ一箇年以内トス

第十一條第十二條第十八條第二項第十九條中〔小學校ヲ除ク〕ノ下第二十條第三項第五項中「學校」ノ下ニ各左ノ十九字ヲ加フ

及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校

第二十三條中「九月十六日」トアルヲ「四月十六日」ト改ム

第二十四條中「一區ヲ設ク」ノ下ニ「又警備隊ヲ置キタル島嶼ハ各別ニ一區ト爲ス」ノ二十字ヲ加フ

第三十四條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

第三十五條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

同條中「翌年四月十日」トアルヲ「十一月二十日」ト改ム

第三十六條中「其年ノ九月一日」トアルヲ「其年十一月二十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者四月一日」ト改ム

同條中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六日以後十一月二十日以前」ト改ム

第三十七條中「八月十五日迄」トアルヲ「三月十五日迄」ト改ム

第四十條中「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第四十二條中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム

○議長 發議ナクハ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者四十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ終ル例ニ依リ上奏セ

午前第十時三十五分閉會

元老院會議筆記明治十九年十一月十五日

禁傍聽

○第五百三十號議案戒嚴令中第一讀會

議長東久世通禧

出席議員

一番	山口	尚芳
二番	伊東	祐磨
四番	楠本	正隆
五番	榎村	正直
六番	林	友幸
七番	西	周
八番	長松	幹

九番	中島 錫胤
十二番	久我 通久
十三番	清岡 公張
十四番	加藤 弘之
十六番	村田 五保
十八番	神田 孝平
二十番	野村 素介
二十一番	福原 實
二十四番	小畑 美稻
二十八番	黒田 清綱
三十二番	三浦 安

元永御會編年通由百十五十一日三十二番

三十三番	伊集院兼寛
三十四番	上杉 茂憲
三十五番	原田 一道
三十六番	橋口 兼三
三十八番	津田 眞道
三十九番	楫取 素彦
四十二番	田中 芳男
四十五番	長岡 護美
四十六番	大久保一翁
四十七番	河田 景與
四十八番	町田 久成

四十九番	伊丹重賢
五十一番	中村弘毅
五十二番	何禮之
五十三番	岡内重俊
五十四番	調所廣丈
五十六番	宮本小一
五十九番	渡正元
六十番	中村正直
六十二番	壬生基修
六十三番	津田出
六十五番	坂本政均

六十六番	神山郡廉
六十八番	由利公正
六十九番	長谷部辰連

内閣委員一番外 法制局參事官曾禰 荒助

午前第十時三十七分開會

○議長 第五百三十號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

明治十五年八月第三十六號布告戒嚴令第六條中「要塞司令官」ノ下「警備隊司令官若クハ分遣隊長」ノ十三字ヲ加フ

○曾禰荒助 一番 本案ノ追加ハ過刻議決セル徵兵令中諸島嶼ニ警備隊ヲ置クコトヲ追加シタルカ爲メナリ分遣隊ハ既ニ徵發令ニモ掲クル

所ノ者ナリト雖_レ常ニ之ヲ置クハ治兵ノ法ニ合セス然ルニ今日之ヲ諸島嶼ニ置ケルハ已ムヲ得サルニ出ツ因テ今後ハ之ヲ改正スルナリ

○三十二番 三浦安 本案ニ對シテハ別ニ異論ヲ懷カサルモ戒嚴令ニ警備隊ヲ追加スル_レハ徵發令ニモ追加セサル可ラス然ルニ戒嚴令ニノミ警備隊司令官ヲ揭示スルヤ徵發令ト合致セスシテ事ニ支障セ_レン然_レモ內閣ノ旨意急施ヲ要スルヲ以テ戒嚴令ノ追加ヲ先ニシ徵發令ノ追加ヲ後ニストナラハ此レ可ナリ若シ或ハ調査ノ際ニ脱漏セルナラハ一旦本案ヲ內閣ニ返還シテ再考ヲ仰カン且ヤ警備隊司令官ハ分遣隊長ノ上ニ位スル者ナレハ益ス以テ徵發令ニモ追加セサル可ラス否ヲサレハ人民ノ疑惑ヲ來スヲ免レス然ルモ或ハ徵發

令ニハ追加スルヲ要セサル理由アルカ果シテ其明白ナル陳辯ヲ聞クヲ得ハ本官ハ必スシモ強テ追加セント要スルニ非ス但シ此件ハ議案外ノ事ニ係_レハ答辯ヲ求ムル能ハサルヲ奈何セン

○議長 第一讀會ハ此ニ終ル
○會稱 第一番 荒助 引續キ第二讀會ヲ開カンコトヲ請フ
○三浦安 三十二番 本官ハ只今內閣委員ニ對シ本案ト徵發令トノ關係ヲ質問セシニ內閣委員ハ未タ其理由ヲ陳明セス而シテ直チニ第二讀會ヲ開クヲ請求スル如キハ本官ノ心ニ安ンセサル所ナリ願クハ會議ヲ中止シテ以テ內閣ノ注意ヲ乞ハン
○渡邊清 十一番 只今三十二番ハ戒嚴令ト徵發令トノ關係ニ就テハ強テ內閣委員ノ答辯ヲ要ス可キ限ニ非スト云フモ本官ハ內閣委員ノ

之ニ對シ答辯ヲ爲スヲ至當ナリト信ス何トナレハ戒嚴令ト徵發令トハ其相須チテ離ル可ラサル恰モ父子兄弟ノ如キ者ナルニ此ニ追加シテ彼ニ追加セサルノ理ハ固ヨリ之レ無ケレハナリ決シテ議案外ニ涉ルニ非サレハ内閣委員ノ答辯ヲ與ヘンコヲ望ム

○外番一番會補荒助 十一番ハ他ノ事件ヲ此ニ引説ス可シト云フモ此レ洵ニ無理ナル要求タリ例ヘハ某人ノ親族姻戚ニ必要ノ事件アラハ宜シク直チニ親族姻戚其人ニ訊問スヘキノミ設令ヒ徵發令ハ戒嚴令ト父子兄弟ノ如シト云フモ固ヨリ其本人ニ非ス到底問題外ノ事ニ屬スレハ本員ハ敢テ答辯セサルナリ

○四十九番伊丹重賢 本官ハ三十二番ノ説ニ因テ少シク疑ヲ生シタリシモ再思スルニ必スシモ其説ノ如シト信セス本官ハ内閣委員ノ言ニ

對シ一點ノ疑ヲ存セサリシヲ以テ初メヨリ沈黙ヲ守リ依然原案ヲ可認スルナリ然レモ一日内ニ第二三讀會ヲ開クハ寧ロ大早計ニ失セスヤ縱令ヒ現議場ニ於テハ一點ノ疑ヒ無キモ一日内ニ速決シ後ニ至リ往往ニ脱漏ヲ感スル無キニ非ス故ニ本日ハ第一讀會ニ止メンコヲ欲ス

○十一番渡邊清 前キニ内閣委員ニ戒嚴令ト徵發令トノ關係ヲ質問セシニ其答辯ヲ拒メリ因テ再考スルニ戒嚴令ハ臨戰合圍ノ地ニ施行スル者ニシテ徵發令ニ比スレハ自ラ緩急ノ別チ無キ能ハス地形ノ廣狹ニ於テモ彼此各異ナリ是レ蓋シ此ニ加ヘ彼レニ加ヘサル所以ナラン果シテ然レハ原案ノ如クニシテ毫モ支障セスト信スレハ續テ第二讀會ヲ開クモ妨ケ無カラシ

○十六番村田保 三十二番ノ言フ所ハ至當ナリ戒嚴令ト徵發令トハ相

ヒ對立スル者ナレハ戒嚴令ニ警備隊司令官ヲ明掲セハ徵發令ニモ追加セサル可ラス内閣委員ハ他事ニ屬スレハ答辯ヲ爲サスト云フモ其實ヲ言ヘハ内閣委員ト雖モ恐クハ答辯スル能ハサルナラン本官ノ所見ヲ以テスレハ定メテ調査ノ脱漏ニ出タルナル可ケレハ内閣ノ再思ヲ請フヲ善シトス故ニ本日ハ第一讀會ニ止メテ可ナリ

○一番山口尚芳 引續キ第二讀會ヲ開クノ可否ニ關シテ諸說紛出シタレ

ハ聊カ本官ノ意見ヲ述ヘテ以テ參考ニ供セン抑モ戒嚴令ト徵發令トハ戰時異變ニ際シ必要ナル法令ナレハ戒嚴令ニ明掲スル者ハ亦必ス徵發令ニ明掲セサル可ラス故ニ此事ヲ以テ内閣ノ注意ヲ請フヲ至當トス而シテ其之ヲ爲スニ二様ノ方法アリ其一ハ暫ク議事ヲ

中止シ議長ヨリ私翰ヲ以テ内閣ニ照會スルニ在リ然ルニ内閣ヨリ原案ニ據テ議定セヨトノ回答ヲ得レハ是レ協議ノ調ハサルナリ然ルモ他ノ一方法即チ本院ヨリ建議スルナリ然ルモ若シ内閣ニ於テ急施ヲ要ストセハ或ハ原案ヲ取りテ發布スルヤモ知ル可ラス故ニ議長ヨリ内密ニ照會スルヲ善シトス思フニ内閣ニ於テモ一方ニ掲ケテ一方ニ掲ケサルハ事ニ支障スト爲シ議長ヨリ照會セル協議ニ從フナル可シト信ス以上唯議長席ノ參考ニ供スルノミ

○十四番加藤弘之 三十二番ハ本案ト徵發令トノ關係ニ就テハ内閣委員

ニ答辯ヲ求ムルヲ得スト云ヘリ本官ハ未タ本院ノ規則ニ慣熟セサルモ十六番ノ云ヘル如ク徵發令ト本案トハ密接ノ法律ナルニ本案ノ外ニ涉ルヲ以テ質問ヲ爲ス能ハストセハ忍ヒテ不完全ノ決議ヲ

爲サ、ル可ラス此等ノ窮屈ナル慣例ハカメテ除去センコトヲ欲ス只今一番ハ議長ヨリ私翰ヲ以テ内閣ニ照會ス可シト云ヘルモ本官ハ以爲ラク戒嚴令ニ掲クル事項ハ徵發令ニモ亦之ヲ掲ク可ク然ラサレハ否決ス可シトノ旨意ヲ内閣ニ照會シ本院ニ於テハ原案ニ據テ直チニ可否ヲ決シ議長ヨリ添翰ヲ具シテ上申スルヲ善シトスト既ニ内閣委員ハ答辯ヲ爲サス而シテ原案ハ不完全ナリト云ヘハ否決スルヨリ外ニハ別ニ他ノ方法ヲ存セス之ヲ要スルニ本院ニ於テハ豫メ決議シテ以テ上奏スルヲ可トス此レ或ハ新例ニ屬センモ此ノ如クセサレハ議事ニ支障スルナリ

○十一番 渡邊清 本官ハ内閣委員ノ戒嚴令ノ追加ヲ徵發令ニ及ホスハ推擴ニ過クト云ヘル如キヲ其答辯ナリト認メリ思フニ此件ニ關シ

テハ内閣委員ニ於テ答辯スル限ニ非スト拒絕スルコトヲ得サル可シ
○議長 第二讀會ノ期日ハ追テ報告セン内閣委員ノ請求ハ之ヲ採ラス本日ハ散會セヨ

午前第十一時三十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年十一月十七日

禁傍聽

○第五百三十號議案 戒嚴令中 第二第三讀會

議長 東久世
通禧

出席議員

一番	山口 尙芳
三番	鍋島 直彬
四番	楠本 正隆
五番	榎村 正直
六番	林 友幸
七番	西 周
八番	長松 幹

九番	中島	錫胤
十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十四番	加藤	弘之
十五番	渡邊	驥
十六番	村田	保
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十五番	永山	盛輝

二十七番	海江田	信義
二十八番	黒田	清綱
三十一番	田邊	太一
三十二番	三浦	安
三十三番	伊集院	兼寛
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十八番	津田	眞道
三十九番	楫取	素彦
四十二番	田中	芳男

四十四番	安藤 則命
四十五番	長岡 護美
四十六番	大久保一翁
四十七番	河田 景與
四十八番	町田 久成
四十九番	伊丹 重賢
五十一番	中村 弘毅
五十二番	何 禮之
五十三番	岡内 重俊
五十四番	調所 廣丈
五十六番	宮本 小一

五十九番	渡 正元
六十番	中村 正直
六十一番	稅所 篤
六十二番	壬生 基修
六十五番	坂本 政均
六十六番	神山 郡廉
六十八番	由利 公正

内閣委員 番外一番 法制局參事官曾禰 荒助

午前第九時五十分開場

○議長 第五百三十號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

明治十五年^{八月}第三十六號布告戒嚴令第六條中「要塞司令官」ノ下「警備隊司令官若クハ分遣隊長」ノ十三字ヲ加フ

○^外番^會荒^補助 第一讀會ニ當リ徵發令ノ事ニ關シテ質問ニ似タル某議官ノ發言ヲ聞キシモ問題外ニ係ルヲ以テ答辯セサリシ是レ一考セハ自ラ領解スルヲ得ヘキモ參考ニ供スル爲メニ聊カ一言セン即チ警備隊司令官ハ要塞司令官ニ對スル者ト知ルヲ要ス

○三十二番^三浦^安 內閣委員ノ言ヲ聞キ第一讀會ニ陳述セシ疑點ヲ解クヲ得タレハ本日ハ異議ヲ唱ヘス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○^外番^會荒^補助 引續キ第三讀會ヲ開カンコトヲ請フ

○議長 內閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十六人

○議長 多數ナルヲ以テ第三讀會ヲ開ク

書記官^{森山茂} 朗讀

明治十五年^{八月}第三十六號布告戒嚴令第六條中「要塞司令官」ノ下「警備隊司令官若クハ分遣隊長」ノ十三字ヲ加フ

○議長 發議ナキヲ以テ可決セシ者ト認メ第三讀會ヲ畢ル例ニ仍リ上奏セン散會セヨ

午前第十時五分閉場

元老院會議筆記 明治十九年十一月十九日

○第五百三十一號議案 賣藥規則中營業免許期限廢止ノ件 第一第二第三讀會

議長 東久世通禧

出席議員

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 山口 尙芳 |
| 三番 | 鍋島 直彬 |
| 四番 | 楠本 正隆 |
| 五番 | 榎村 正直 |
| 六番 | 林 友幸 |
| 七番 | 西 周 |
| 八番 | 長松 幹 |

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including phrases like "議案" and "讀會"]

九番	中島	錫胤
十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十四番	加藤	弘之
十六番	村田	保
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻
二十五番	永山	盛輝

二十八番	黒田	清綱
三十一番	田邊	太一
三十二番	三浦	安
三十三番	伊集院	兼寛
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十八番	津田	眞道
三十九番	楫取	素彦
四十四番	安藤	則命
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁

四十七番	河田 景與
五十一番	中村 弘毅
五十二番	何 禮之
五十三番	岡内 重俊
五十四番	調所 廣丈
五十六番	宮本 小一
五十七番	長與 專齋
五十九番	渡 正元
六十一番	稅所 篤
六十二番	壬生 基修
六十六番	神山 郡廉

內閣委員 番外 法制局參事官水野 遵

六十八番 由利 公正
六十九番 長谷部辰連

午前第十時開場

○議長 本日ハ第五百三十一號議案ノ第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ
後例ニ從テ發議セヨ

書記官 西山 眞平 朗讀

賣藥規則中營業免許期限廢止ノ件

右其院議定ニ付ス

明治十九年十一月十三日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

明治十年一月第七號布告賣藥規則中營業免許期限ヲ廢止ス

○外一番水野 例ニ遵ヒ改正ノ理由ヲ陳セン明治十年ニ於テ賣藥規

則ヲ制定セルヤ特ニ免許期限ヲ五箇年ト爲セシハ其間漸次ニ検査
ヲ施シ拙劣無効ナル者ヲ去リ善良有効ナル者ヲ擇ハン爲メナリシ
然ルニ爾來數年ヲ經過スルモ主務省ニ於テハ十分ニ最初ノ目的ヲ
達セサルノミナラス此期限アルカ爲メニ營業者ハ五箇年毎ニ改メ
テ免許ヲ請ハサルヲ得ス若シ此免許ヲ請フコトヲ怠タレハ法律ニ照
シテ處罰セラル要スルニ此期限ハ官民共ニ不便ト爲ス所ナレハ今
者斷然ニ之ヲ廢止セントス此他特別ノ理由アルニ非サレハ速カニ
議定センコトヲ希望ス

○議長 各官ノ質疑モ無ク又發論モ無キヲ以テ第一讀會ヲ畢ル

○外一番水野 本案ハ一ノ議論モ出ル無クシテ第一讀會ヲ經過セシ

ナレハ引續キ第二第三讀會ヲ開ンコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ヨリ第二第三讀會ヲ開クヲ請求セルヲ以テ各官ノ
意見ヲ問ハン即チ内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者四十一人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク
書記官西山眞平 朗讀

明治十年一月第七號布告賣藥規則中營業免許期限ヲ廢止ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ可決シ引續キ第三讀會ヲ開キ書

記官ノ朗讀ヲ省ク意見アラハ直チニ發言セヨ

○議長 本案ニ可決セリト認メ第三讀會ヲ畢ル例ニ遵ヒ議定ヲ經タル旨ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午前第十時十分閉場

元老院會議筆記 明治十九年十二月三日

禁傍聽

○第五百三十二號議案 酒造稅則中 第一第二第三讀會

議長 東久世
通禧

出席議員

一番	山口 尙芳
三番	鍋島 直彬
四番	楠本 正隆
五番	榎村 正直
六番	林 友幸
七番	西 周
八番	長松 幹

十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十四番	加藤	弘之
十五番	渡邊	驥
十六番	村田	保
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十三番	岩下	方平
二十四番	小畑	美稻

二十五番	永山	盛輝
二十六番	尾崎	三良
二十八番	黒田	清綱
三十一番	田邊	太一
三十二番	三浦	安
三十三番	伊集院	兼寛
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十七番	岩村	定高
三十九番	楫取	素彦

四十一番	穴戸 璣
四十二番	田中 芳男
四十五番	長岡 護美
四十六番	大久保一翁
四十七番	河田 景與
四十九番	伊丹 重賢
五十一番	中村 弘毅
五十二番	何 禮之
五十三番	岡内 重俊
五十四番	調所 廣丈
五十六番	宮本 小一

五十九番	渡 正元
六十番	中村 正直
六十一番	稅所 篤
六十二番	壬生 基修
六十五番	坂本 政均
六十六番	神山 郡廉
六十八番	由利 公正
六十九番	長谷部辰連

内閣委員 一番外 法制局參事官男谷 忠友

午前第十時開場

○議長 第五百三十二號議案ノ第一讀會ヲ開ク朗讀ノ後子例ニ遵ヒ

發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

酒造稅則中改正ノ件

右其院議定ニ付ス

明治十九年十一月二十七日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

明治十三年^{九月}第四十號布告酒造稅則第九條中「九月三十日限」トアル
ヲ「十月三十一日限」ト改ム

○外番一番 男谷忠友

例ニ仍リ本案主趣ノ要領ヲ陳シ現行酒造稅則第九條
ニ於テ造石稅ノ納期ヲ三期ニ分チ而シテ其第一第二ノ兩納期ハ各
稅額ノ半數ヲ徵シ第三期ニ至リテ殘額ヲ徵收スルコトヲ規定セリ第

三期ハ即チ九月三十日限ニシテ此時期タル酒類ハ既ニ釀成スルモ
概ネ未タ販賣シテ其代金ヲ領握スルニ及ハス然ルニ酒造家ハ此ノ
如ク販賣ノ時機未タ熟セサルモ造石稅納期ノ眼前ニ迫マレルヲ以
テ已ムヲ得ス其販賣ヲ急ニス聞ク彼ノ灘伊丹地方ハ毎年九月ヲ以
テ清酒ヲ東京ニ輸送シ十月五日マテニ其代金ヲ領收スル慣習ナル
ニ納期ノ九月三十日ナル爲メニ此便利ナル慣習ヲ襲ク能ハス相ヒ
競フテ販賣ヲ急ニスルヨリ價直モ隨テ低ク酒造家ハ大ニ困難ヲ被
フルト蓋シ税金ニ滯納ヲ生シ造石稅ノ收入額ヲ減少スルハ多クハ
此ニ原ツクナリ故ニ納期一月ヲ延ヘ十月三十一日限ト爲サハ攝津
地方ヨリ酒ヲ東京ニ輸シ其代金ヲ領收スルニ十分ノ時日ヲ得レハ
従前ノ如ク急ニ販賣スルヲ須ヒス隨テ税金ノ滯納ヲ減スルヲ得ン

トス是レ蓋シ官民雙方ノ利便ナリ以上ニ陳ル所ハ即チ本案發布ノ理由タリ併セテ陳フ造石税ノ延滞ヲ生スル甚々多キハ全ク第三納期ノ早キニ由ルハ既ニ十七年ニ於テ大藏省ノ調査ニ因テ發見セシ所ナリ速ニ議決センコトヲ望ム

○一番山口
尙芳

本案ハ主務省及ヒ内閣ノ充分ニ研究ヲ加ヘシ者ナランモ只今ノ説明ヲ以テシテハ未タ詳カニ領會スルヲ得ス納期ノ早キカ爲メニ滞納ヲ生スルヲ以テ一月ヲ延ヘリト云フモ一月ノ延期ハ果シテ能ク滞納ヲ減スルヲ得ルヤ否ヤヲ疑フ本官ハ税金ノ納期ト代金ノ領收期トノ間ニ充分ノ餘裕ヲ存セシメントセハ一月ノ延期ヲ以テシテハ尙ホ未タ足ラサル可シト思量ス此事ヤ宜シク酒造家ニ困難ヲ被ラシメスシテ造石税ヲ徵收スルヲ得ル方法ヲ講究スヘ

ク即チ新穀ヲ收穫セシ以後之ヲ以テ新酒ヲ釀造スル時間ヲ精細ニ計算スルヲ要スルナリ陽曆十月ハ陰曆九月ナレハ十月三十一日ヲ限ルハ猶ホ早キニ失スル無キ耶

○番一
外 番男
一忠
外友

只今例ヲ舉シ如ク攝津地方ノ酒造家ハ概ネ九月下旬ヨリ清酒ヲ東京ニ輸送シ十月五日マテニ其代金ヲ領收スル慣習ナルヲ以テ納期ハ十月三十一日限ト爲シ其間二十五日ノ餘暇ヲ置ケハ充分ナラン然ルヲ若シ代金ノ領收期ト税金ノ納期トノ間ニ過多ノ猶豫ヲ存シ長ク其代金ヲ手中ニ存セシムレハ之ヲ他事ニ運用シ遂ニ浪費シテ却テ怠納ヲ増スノ懼レ有リ且ヤ本員ハ釀造額ノ最モ多ク代金領收期ノ最モ遅キ攝津地方ヲ取テ之ヲ例セルカ故ニ此他ノ地方ニ至テハ其支障ヲ見サルヤ明カナリ要スルニ全國各地ヲ通

シテ代金ノ領收期ト税金ノ納期トニ二十五日ノ餘裕ヲ與フレハ蓋シ充分ナリトス

○議長 質問發議共ニ盡キタルヲ以テ第一讀會ヲ畢ル

○外一番男谷 忠友 徑チニ第二讀會ヲ開カンコヲ乞フ

○議長 引續キ第二讀會ヲ開ク可キ内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十七人

○議長 多數ナルヲ以テ直チニ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則第九條中「九月三十日限」トアルヲ「十月三十一日限」ト改ム

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第二讀會ヲ畢ル

○外一番男谷 忠友 猶ホ引續キ第三讀會ヲ開カンコヲ乞フ

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者四十三人

○議長 多數ナルヲ以テ直チニ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

明治十三年九月第四十號布告酒造稅則第九條中「九月三十日限」トアルヲ「十月三十一日限」ト改ム

○議長 可決ト認メ第三讀會ヲ畢ル即チ可決ノ旨ヲ具シテ上奏セン

散會セヨ

午前第十時二十分開場

元老院會議筆記明治十九年十二月八日

○第五百三十三號議案臘虎并臘豚獸獵獲及共生皮輸入販賣規則第一讀會

議長大木喬任

出席議員

- 一番 山口 尙芳
- 二番 伊東 祐磨
- 四番 楠本 正隆
- 六番 林 友幸
- 七番 西 周
- 八番 長松 幹
- 十一番 渡邊 清

十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十五番	渡邊	驥
十八番	神田	孝平
十九番	福羽	美靜
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻
二十五番	永山	盛輝
二十八番	黑田	清綱
三十一番	田邊	太一

三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十七番	岩村	定高
三十九番	楫取	素彦
四十一番	穴戶	璣
四十二番	田中	芳男
四十四番	安藤	則命
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁
四十七番	河田	景與

四十八番	町田 久成
五十一番	中村 弘毅
五十二番	何 禮之
五十三番	岡内 重俊
五十四番	調所 廣丈
五十五番	大給 恒
五十六番	宮本 小一
五十八番	東久世通禧
六十番	中村 正直
六十一番	稅所 篤
六十二番	壬生 基修

内閣委員 番外一番 法制局參事官 股野 琢

午前第十時七分開場

○議長 第五百三十三號議案ノ第一讀會ヲ開ク本案朗讀ノ後子例ニ
遵ヒ發議セヨ

書記官 森山茂 朗讀

臘虎并臘納獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

右其院議定ニ付ス

六十五番 坂本 政均

六十六番 神山 郡廉

六十八番 由利 公正

六十九番 長谷部辰連

明治十九年十二月一日 內閣總理大臣伯爵伊藤博文

元老院議長伯爵大木喬任殿

臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵場區域内ニ於テ臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帯シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二條 臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ獵船ノ名噸數乗組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該

道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ常ニ船櫓又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

第三條 臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ

但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長

タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及
合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國內ニ輸入スル
コトヲ得

○番一 股野 外一 番 珠

本案ノ要用ナル理由ハ業已ニ各官ノ領知セル所ニシ
テ從來臘虎臘肭獸ノ密獵者頗ル多キモ之ヲ管制スル能ハサルハ畢
竟嚴密ナル取締法ナキニ坐ス故ニ今其取締法ヲ設ケントスルハ各
官ノ感ヲ同フスル所ナラン本案ハ條項多カラス且錯雜ナル規則ニ
モ非サレハ別ニ他ノ辯明ヲ要セス然レモ各官中或ハ單純ナル十七
年第十六號布告スラ現ニ實行スル能ハサルニ却テ稍ヤ綿密ナル本
案ヲシテ實功ヲ奏セシムルハ難カラントノ感觸ヲ懷ク無キヲ保セ
サレハ聊カ將來ニ施ス可キ取締ノ手續ヲ陳ヘン抑モ本案ハ初メ外

務内務農商務三大臣ノ商議ニ出テ殊ニ外務大臣ノ主トシテ力ヲ盡
セルニ成レリ其立案以前ニ在テ外務大臣ハ廣ク各外國公使ニ協議
シ露國公使ノ如キハ熱心ニ本案ノ制定ヲ希望セリ若シ本案ニシテ
一タヒ實施スルニ至ラハ露國ハ以テ我國ノ密獵者ニ注意シ我國ハ
以テ露國ノ犯禁者ヲ提轄シ互相ニ助力シテ之カ効功ヲ舉ルノ便ア
リ且其効功タル從來ノ規則ノ如ク只ニ北海道ノ一地方ニ止マラス
廣ク全國諸港ニ及フカ故ニ無檢印ノ生皮ハ何處ノ港地ニモ輸入販
賣スルヲ得ス是レ表面ト裏面トノ雙方ヨリ提轄ヲ加フル者トス既
ニ表面ノ取締ニ關シ北海道廳ハ巡視用ノ小汽船一隻ヲ備ヘンコトヲ
政府ニ稟請セル有レハ實施後ハ十分ニ海上ノ取締ヲ爲スヲ得ヘク
隨テ獵獲者モ亦必ス本則ヲ遵守スルニ至ラン論者或ハ此ノ如キ新

法ヲ布カサルモ其取締ヲ警察權ニ委セハ足ラントノ感覺ヲ生セン
モ知ル可ラサレハ尙ホ爲メニ一言セン從來北海道臘虎臘肭獸獵獲
ノ取締ニ關シテハ種々ノ經畫ヲ爲シ海軍省ニ協議シテ巡視ノ爲メ
ニ毎歲軍艦ヲ派遣スル有ルモ是レ殆ント其名ノミ其實ハ一歲一回
ノ巡視ニ過キスシテ未タ以テ取締ノ目的ヲ遂ル能ハス此ノ如キ狀
況ナルヲ以テ今ヤ本案ヲ實施シ加フルニ汽船軍艦ノ巡航視察スル
方法ヲ以テセハ完全ナル取締ノ實効ヲ見ルヲ得ントス

○十一番 渡邊清

臘虎臘肭獸ノ獵獲ニ關シテハ獨リ十七年第十六號ノ
單行布告アルノミ從來一定ノ取締法ヲ存セサレハ本案ヲ制定セン
トスルハ固ヨリ已ムヲ得サル可ク且僅カニ四條ニ過キサル法案ニ
シテ其意義モ甚タ明瞭ナレハ別ニ異議ヲ生スル無ケン惟タ本官ハ

實際ノ事情ト條項ノ文字トニ關シ番外ニ一問セン十七年ノ制禁以
來農商務省ノ特許ヲ得タル獵獲營業者ノ人數ハ幾許ナリヤ第一條
ノ末文ニハ「從事スヘシ」ノ命令詞ヲ用ヒタリ本官ノ考フル所ヲ以テ
スレハ農商務大臣ノ特許ヲ得タル營業者ハ獵獲期限内ト獵場區域
内トニ於テ獵獲ニ從事スルヲ得ルヲ示ス可キ任他文詞ヲ用ユル
コソ當然ナラント信ス夫レ制禁ヲ犯シテ私ニ獵獲スレハ刑法ノ罰
ヲ科セラル而シテ其中ニ在テ獨リ獵獲ノ免許ヲ得ルハ眞ニ特許ナ
リ此特許ヲ得タル者ハ必ス獵獲ニ從事ス可シト命令スルヤ其裏面
ニハ若シ從事セサルキハ相當ノ制裁ノ存スル有ルニ似タリ原案ハ
其從事セサル者ニハ科スルニ鑑札取揚等ノ制裁ヲ以テスルノ意ナ
ル耶然ラスンハ穩當ナル文例ヲ用ヒンコヲ欲ス第二條ニハ「獵獲ニ

從事スル者ナル現在詞ヲ用フレモ是亦「從事セントスル者」ナル未
 來詞ヲ用フルノ妥當ナルニ如カサラン第三條ノ「檢印」ノ下ニ故サ
 ラニ烙印云云ヲ括弧ノ中ニ記セシハ何ソヤ檢印烙印ヲ受クルハ
 生皮ノ賣却者ニ命令スル所ナルニ其檢印烙印孰レヲ受ルモ可ナル
 ナラハ是亦檢印又ハ烙印ヲ受クヘシト云フノ妥當ナルニ如カサラ
 ン又若シ原案ノ意味ハ檢印ヲ正則ト爲シ烙印ヲ變則ト爲スト假定
 センカ然ルモ猶ホ括弧ヲ用ユルノ要ヲ見サルナリ第四條ノ「發見ス
 ルトキハ」ノ語句タル現ニ發見スル場合ノミニ關スルカ如シ故ニ
 「發見シタルトキハ」ノ過去詞ヲ用ヒ以テ其犯則ノ證據ヲ見出シタ
 ルト云フノ意味ニ改ム可キニ似タリ又其但書ハ關係甚タ重シ是
 レ蓋シ番外ノ説明セシ如ク外務省ノ熟案ヲ經テ外國公使ト協議ヲ

盡セルナラン殊ニ露國公使ハ我國ト勦力シテ其取締ヲ爲スヲ承
 諾セリト聞クハ本官ノ最モ欣フ所タリ故ニ本項ニハ大ニ注意ヲ加
 ヘサル可ラス文中ノ船主又ハ船長トハ單ニ獵船ノ所有主ヲ謂フ乎
 將タ獵船ノ所有主ニ非サレモ幾多ノ獵者ヲ雇役スル獵主ヲ謂フ乎
 又是レ外國人ヲモ包含スルヤ例ヘハ外國人ニシテ當該官吏ノ證書
 ヲ帶ヒスシテ生皮ヲ輸入セハ認メテ以テ犯則ト爲スヤ若シ否ラス
 トセハ本邦人ニシテ外國人ニ雇役セラルル者モ其雇役セラルルノ
 間ハ之ヲ處スルニ此規則ヲ以テスル能ハサルカ如シ願クハ以上ノ
 數點ヲ辯明セヨ

○番一 番股野 十一番ノ五箇ノ質問ニ答ヘン第一問ナル第一條ノ「從
 事スヘシ」ノ文字ハ其旨意論者ノ解スル所ト異ナリ本案ハ新タニ北

海道ニ於テ臘虎臘獸ノ獵獲ヲ許ス法律ニ非ス即チ十七年第十六號布告ノ但書ニ因由スル者ナリ此但書ニ據リテ特許ヲ得タル者ハ從來北海道ノ何レノ處所ヲ問ハス廣ク獵獲スル權利ヲ有セシニ本案ヲ以テ始メテ期限ト區域トヲ制限スルナレハ本案ニ於テハ自今特許者ハ此制限ニ遵フテ獵獲ニ從事ス可シト命令スルヲ要ス故ニ「從事スルヲ得」ナル任他文詞ヲ用ユ可キニ非ス附テ陳フ農商務省ノ特許ヲ得タル獵獲者ハ今日未タ一人モ之レ有ラスト聞ケリ第二問ナル第二條ノ「從事スル者」ノ文字ハ豫備ノ意義ヲ示スニ非ス若シ論者ノ說ニ照シテ「從事セントスル者」ナル未來詞ヲ用ヒハ本文ニ所謂ル届書ニハ支障セサル可キモ徽章ヲ掲ケヨトノ命令文ニ對シ支障スルナリ第三問ナル第三條ノ檢印烙印ノ一事ハ論者ノ說ノ

如クスル或ハ可ナランモ本案故サラニ烙印云云ニ括弧ヲ施セシハ其理由アリ檢印トハ必ス検査シ而シテ押印スル意味ヲ含メ凡烙印トハ即チ燒印ノ謂ニシテ「烙印ヲ受クヘシ」トハ言フ可ラス是レ括弧ヲ施シテ脚註ト爲セシ所以ナリ第四問ナル第四條ノ「發見スルトキハ」ノ語句ハ過去詞ニ改ム可ラサルニ非サルモ畢竟是レ現行犯ノ場合ナレハ本案ニハ現在詞ヲ用ヒタリ第五問ナル第四條ノ但書ハ最も重要ナル者ニシテ本案ノ精神タル半ハ此中ニ存ス何トナレハ是レ主ハラ外國人ニ關スル法文ナレハナリ船主船長トハ内外人ヲ併稱スレ凡現時日本人ノ露國若クハ米國ノ所轄内ニ赴キテ獵獲ニ從事スル有ラサレハ目下ハ重モニ外國人ヲ指ス外國人ハ日本人ト異ニシテ臘虎獵獲ノ爲メニ會社又ハ組合ヲ設ケ而シテ船主自ラ獵

獲ニ從事スル有リ又船長ヲシテ獵獲ニ從事セシムル有レハ船主船長ノ文字ハ甚タ要用ナリトス故ニ此ニ言フ船主船長トハ目下ニ在テハ專ラ外國人ニ關スト解釋シテ可ナラン

○四十二番田中芳男 十一番ノ質問ニ對スル番外ノ答辯ニ因テ本官ノ疑問ハ一半氷解シタレト猶ホ二三ノ質問ヲ要ス第三條以下ニ掲クル生皮トハ單ニ鮮血未タ乾カサル者ノミヲ謂フ乎又ハ彼ノ鹽漬等ト爲セル者ヲモ含ム乎將タ熟皮ヲ除クノ外ハ盡ク生皮ノ二字ヲ以テ總括スル乎第一條但書ノ特許狀ハ獵獲者ノ必ス携帯ヲ要スルハ明カナレト個ハ一船ノ乗込人十人ナレハ必ス十枚ヲ携帯セサル可ラサル耶第二條ニ所謂ル徽章ヲ獵船ノ標識ト見レハ船ハ徽章ヲ以テ證シ人ハ特許狀ヲ以テ證スルニ似タリ何如シ第四條ノ「帝國諸港ニ

輸入シ」云云トハ日本人ノ其獵獲セシ生皮ヲ日本帝國諸港ニ輸入スル場合ノミヲ謂ヒ而シテ外國諸港ニ輸入スルハ本案ノ限外ニ在リヤ例ヘハ日本人ニシテ生皮ヲ東薩加浦鹽斯德等ニ輸入シ日本領事ノ其無檢印ノ者タルヲ發見スルモ敢テ之ヲ咎メサル耶

退席

四十六番 大久保一翁

○番一野股琢 特許狀ハ獵獲ニ從事スル水夫小丁ニ至ルマテ盡ク各自ニ携帯セシムルヲ要スルニ非ス臘虎臘肭獸ヲ獵獲スルニハ數多ノ器具ト數多ノ人員トヲ要シ單身徒手ニシテ獵獲スル能ハサレハ特許狀ハ一隻ノ獵船乗込人中ノ主長タル者即チ船主若クハ船長ノ携帯スルヲ以テ足レリトス又生皮ノ事ハ少シク苛酷ナル質問ニ似タリ臘肭獸肉ヲ鹽漬ト爲スハ之レ有ル可キモ未タ以テ臘虎臘肭獸

皮ヲ鹽漬ト爲スヲ聞カス凡ソ生皮トハ強カチ鮮血ノ滴タル者ノミ
 ヲ謂フニ非ス畢竟是レ慣用文字ニシテ製熟ヲ經サル皮類ヲ總稱ス
 ルノミ通常臘虎臘肭獸ヲ獵獲スルヤ剝キテ生皮ト爲ス者ニシテ獵
 船内ニ於テ直チニ製熟ヲ加フルニ非ス現ニ熟皮ト爲シテ本邦ニ輸
 入スルハ概子英米諸國ノ製作ヲ經タル者ニシテ此等ハ本案ノ問フ
 所ニ非ス要スルニ本案ノ提轄ハ只其生皮ノ輸入ニ關スルノミ又生
 皮ヲ外國諸港ニ輸入シ日本領事ノ其無檢印ナルヲ發見スルハ何
 如ト問フモ然カク法網ヲ脱シテ外國ニ販賣スル者ノ如キ一一ニ追
 跡シテ其犯狀ヲ搜檢スルノ煩ヲ取ル能ハス但タ交際國ノ德義上ヨ
 リ彼我互ニ取締ヲ爲スハ格別ナリトス若シ我カ外國駐在領事ノ犯
 者ヲ發見シタル場合ニ於テハ其處分ヲ警察權ニ委スルヲ得ヘク其

取締モ亦敢テ難キニ非サルヲ信ス然レモ個ハ本員ノ此議場ニ確言
 スル能ハサル所ナリ

○五十五番 大給恒 取締ニ關シ一事ヲ質問セン是レ文章ノ明備ナラス

ト云フニ非ス又敢テ修正ヲ加フルノ意見ヲ有スルニモ非ス只本官
 一個ノ心證ニ供センカ爲メノミ本案第二條ハ總テ獵獲者ニ對スル
 命令タリ而シテ其命令中ニ於テ特ニ定ムル徽章ハ獵獲者ノ北海道
 廳出張所ニ届出タルモ直チニ之ヲ授與スルカ或ハ最初農商務省ニ
 於テ特許狀ト共ニ之ヲ授與スルカ又廢業若クハ休業スル場合ニハ
 一一ニ之ヲ還納セシムルカ此等ハ素ヨリ手續ニ屬スルヲ以テ本案
 ニ明記スルヲ要セサレモ徽章ノ有無ハ正當ノ獵獲ト違犯ノ獵獲ト
 ノ由テ分ル所ナレハ漫ニ看過ス可キニ非サレハ敢テ一辯ヲ煩ハス

○番一 番股野 手續ニ關スル事項ハ本案ノ説明ニ切要ナラサレハ深ク研究セサリシモ思フニ徽章トハ即チ目印ヲ謂フナレハ晝間ハ旗章ヲ用ヒ夜間ハ燈火ヲ用ヒ而シテ其形色ノ如キモ北海道廳ニ於テ宜キニ從ヒ之ヲ定ムルナラン北海道廳ノ既ニ規定發布スル有レハ船主ハ各其雛形ニ從フテ自ラ製造使用スルナル可シト信ス是レ從來施行スル商船規則ノ例ニ依リテ推考セル所ニシテ內閣委員一個ノ考案ナルヲ領セヨ

○十一番 渡邊 第四條ノ但書ハ充分ニ訂質セサルヲ得ス抑モ證明書ハ北米合衆國日本帝國其孰レノ政府ニ差出ス可キヤ假ニ日本帝國ト爲スモ其差出スノ場所ハ稅關ナル歟將タ北海道廳ナル歟若シ之ヲ明示セスンハ將來ニ紛議ヲ生スル無キヲ保セス彼ノ流行病検査

規則ハ外國船舶ニ關係スル者ナルカ故ニ內務省ハ其實行上間マ困難ニ遇フト聞ク本案ノ關係ノ重大ナルハ此等ノ比ニ非ス願クハ明白ノ答辯ヲ與ヘヨ

○外 番一 番股野 證明書ハ日本政府部内ニ差出スナリ但書ノ文面ニ於テ帝國諸港内ト言ハス故サヲニ帝國內ト言ヒシハ大ニ意味アルナリ又其輸入ナル文字ハ善ク證明書ヲ差出スノ場所ヲ明カニス何トナレハ物品ヲ帝國內ニ輸入スルニハ必ス稅關ヲ通過セサル可ラス而シテ此ヲ通過スルニハ證明書ヲ差出スヲ要スルヤ明白ナレハナリ但若シ其意義分明ナラストセハ至當ノ修正ヲ加フルモ可ナリ

○四十二番 田中 芳男 生皮トハ熟皮ニ反對スル者ヲ謂フトノ答辯ハ之ヲ領セリ內閣委員ハ獸皮ニ鹽漬ト爲セル者ナシト斷言スルモ是レ事

實ヲ知ラサルノ言ノミ世間素ト多ク有ル所ナリ個ハ姑ク措キ第一條但書ノ特許狀ニ關シ尙ホ少シク疑ヲ質サン臘虎臘肭獸ヲ獵獲スルニハ多クハ本船ヨリ小舟ヲ四方ニ漕出シ獵者ハ海水淺處ニ就テ各自捕獲ニ從事スルカ故ニ或ハ獸ヲ追フテ陸地ニ上ホルコ有ラン此際警察官ノ咎ムル所ト爲リ一人毎ニ特許狀ヲ携帯スル無ンハ之カ證明ヲ爲スニ支障セン或ハ警察官ヲシテ一一ニ本船ニ就キ検査セシムルノ旨意ナルヤヲ知ラサレモ本官ハ之ヲ危フマサルヲ得サルナリ

○番一 番股野 特許狀ヲ授與スル方法及ヒ其受取人ノ何人ナルニ關シテハ本員ハ之ヲ辯明スルノ責ヲ有セス何トナレハ是レ十七年第十六號布告ニ據リテ既ニ確定セル所ノ事ニ係レハナリ然レモ質問

ノ意ヲ空フセサル爲メニ單ニ本員ノ意見ノミヲ一辯セン質問者ノ説ル如ク實際ニ於テハ小舟ヲ以テ獵獲ニ從事スルニ當リ或ハ陸地ニ上ホルコ有ラン此等ノ獵手水夫ハ各自ニ特許狀ヲ携帯セサルモ警察官ノ之ヲ検査スル場合ニ於テハ其乗込本船ニ就キテ訊究シ乗込人名書ト照較スルヲ得ヘシ何如ニ現行犯ナリモ此等ノ手續ヲ經スシテ直チニ逮捕シ告發スル者ニ非ス商船ノ水夫等ノ端船ニ乗シテ各所ニ往來シ又ハ上陸スルニ當リ各自ニ航海免狀ヲ携帯セサレハトテ一一ニ之ヲ犯則ニ認ム可キニ非ス必ス本船ニ就テ航海免狀ヲ検査スルヲ要スルト相同シ是ヲ以テ之ヲ考フルモハ論者ノ望念ハ無用ナルカ如シ

○十三番 清岡 公張

北海道ニ於テ臘虎臘肭獸ノ獵獲ヲ禁スル旨趣ハ本官

詳カニ之ヲ知ラス又本案ヲ制定シテ取締ヲ周密ナラシメサレハ何等ノ弊害ヲ生スルヤハ之ヲ明ラメス是レ或ハ密獵ヲ防制スルニ在ランモ其旨趣到底茫漠タルヲ免レス若シ果シテ密獵ヲ防制セントナラハ今少シク其組織ヲ具備セシメンコトヲ望ム又或ハ單ニ日本諸港ニ輸入シ來ル生皮ノ數ヲ檢スルニ止マル精神ナルカ本官ハ幾ント五里霧中ニ彷徨スルノ思ヒ有リ願クハ本官ヲシテ本案ノ旨趣ヲ明瞭ニ會得セシメヨ本案ハ素ト日本人民ニ對シテ制定スルナル可キモ裏面ヨリ之ヲ視ヘハ却テ日本人民ニ對スル關係甚タ輕キニ似タリ是レ十七年以來未タ一人モ特許ヲ得タル者アラサルヲ以テ之ヲ知ル可シ然レモ一步ヲ退テ推考スルニ或ハ將來ニ特許ヲ得ル者ノ出ツ可キヲ豫想セシナラン果シテ然ラハ此ニ完全ナル制裁ヲ定

ムルヲ要スルハ論ヲ俟タス第四條ハ單タ物品取押ト告發トノ二事ヲ規定スルノミ外國人タル犯者ニ對シテハ何等ノ科罰ヲ目的ト爲シテ之ヲ告發スル耶蓋シ十七年第十六號布告ハ之ヲ外國人ニ適施スル能ハサラン然レモ本則中ニ其制裁ヲ規定セサルヲ以テ之ヲ觀レハ其告發セル場合ニ於テハ十七年第十六號布告ノ違犯ト同視シ刑法第三百七十三條ニ該當スル者ト看做ス耶是レ本官ノ疑フ所ナリ又第四條ノ「帝國諸港内」ナル文字ハ法文ノ新例ニ係ル蓋シ本案ハ日本帝國ノ法律ナレハ帝國諸港内ト言ヘハ啻ニ日本人民ノミナラス外國人民ト雖モ全日本帝國內ノ諸港ト解ス可シト云フニ出テシナランモ内外條約書ヲ除クノ外ニハ本邦ノ法律規則中ニ其用例ヲ見サル所ナリ故ニ本官ハ日本帝國諸港内ト爲スノ穩當ニシテ明

白ナルニ如カスト信スレモ本案ノ故サラニ此文字ヲ用ヒタルハ他ニ理由アリテ然ル耶

退席

十九番

福羽 美靜

○番一 股野 外一 番 琢

十三番ハ臘虎臘肭獸ノ獵獲ヲ禁止スル精神ノ如何ヲ問ヘモ之ニ答ヘンニハ十七年第十六號布告ニ遡ホラサルヲ得ス是レ本員ノ職分ノ爲ス能ハサル所トス因テ只本員一個ノ知り得タル所ヲ陳ヘン元來臘虎臘肭獸ハ各國何地ニモ產生スル者ニ非ス獨リ露西亞、米利堅兩國ノ海岸及ヒ我北海道ノミニ產生スルノミ斯ノ如ク稀有貴重ノ獸類ナルカ故ニ產生國ニ於テハ其獵獲ニ關シテ徵稅法ヲ設ケ隨テ嚴重ナル取締法ヲ立ル有リ然ルニ我カ北海道ニ於テハ漫然ニ看過セシヲ以テ時々米露兩國ノ刺激ヲ受タル有リト聞ク

是レ十七年第十六號布告ヲ制定シ尙ホ一層ニ取締ヲ嚴重ナラシムル爲メニ本案ノ發布ヲ要スルノ原因ヲ成セシナラン又本案ノ違犯者ノ制裁何如ンヲ問ヘリ思フニ假令ヒ農商務大臣ノ特許狀ヲ帶有セル獵獲者ナルモ此規則ヲ犯シテ生皮ヲ輸入販賣スルキハ竊取ノ罪ヲ以テ之ヲ論シ刑法第三百七十三條ヲ適用シテ可ナラン又第四條ノ「帝國諸港内」ノ文字ハ法律文ニ其用例ヲ見ス宜ク日本ノ二字ヲ加フヘシト云ヘリ然レモ本則ハ本邦人ノミナラス廣ク外國人ニ對スル者ナルカ故ニ此新文字ヲ用ヒタルナラン但幸ニ穩當ノ修正ヲ得ハ本員強テ拒マサル可キノミ

退席

四十八番

町田 久成

○十一番 渡邊 清

第四條ノ但書ハ懸念尠ナカラス既ニ外務大臣ト外國

公使トノ協議熟セリト云フモ本官ハ本案ノ主意獨リ本邦人ヲ取締ルノミニ在ラスシテ傍ラ外國人ニ恩惠ヲ與ヘテ之ヲ欸待スルニ出テタルヤノ感觸ヲ有ス元來日本人ノ臘虎臘肭獸ヲ獵獲スルハ單タ北海道ノ海岸ニ行ハルモ向後露領内若クハ米領内ニ赴ク無キヲ期セス現ニ九年第二十五號布告ヲ以テ露領樺太島ニ於テ本邦人ノ漁業ヲ爲スヲ許セリ然ラハ外國人ノ我北海道ニ來リテ獵獲スルヲ許スヤ明カナリ果シテ其取締ニ關シテハ外國人モ本邦人ト同一ノ法律ヲ以テ支配スル耶若シ本則ノ効力ノ獨リ本邦人ニ止マリテ外國人ニ及ハストセハ甚タ厭フ可キノ結果ヲ來サントス

○外番一番股野 十一番ハ深思遠慮ノ餘リ深切ナル質問ヲ發セシナラシモ外國人ノ獵獲ヲ許スハ既ニ十七年ニ確定セル所ナリ故ニ内外

人ヲ問ハス苟モ我カ農商務大臣ノ特許狀ヲ帶有スル者ハ此規則ノ範圍中ニ在ルヤ當然ナリトス

○一番山口 無檢印ノ生皮ハ輸入スル能ハス又販賣スル能ハス若シ之ヲ犯スキハ直チニ該物品ヲ取押ヘテ告發スルハ第四條ニ於テ明カナリ然ルニ現ニ自ラ獵獲セルニ非ス且其無檢印タルノ情ヲ知ラスシテ輸入販賣セルキハ何如カ之ヲ處分スル耶又本案ハ專ラ北海道廳ノ管下ニ行ハル可キ規則ニシテ檢印ノ如キモ北海道廳ノ指定スル出張所ニ請ハサルヲ得ス然ルニ其題名ヨリセハ廣ク施行スル者ノ如シ果シテ廣ク施行スル者ナラハ小笠原島若クハ浦鹽斯德港ニ於テ買得セシ生皮モ故サラニ北海道廳出張所ニ赴キテ檢印ヲ請ハサル可カサルニ似タリ此等ノ疑點ハ豫メ判明ナラシムルヲ要ス

○外一番取野

一番ノ疑團ハ第一條ノ明文ヲ讀下セハ自ラ冰解スルヲ得ン第一條ハ明カニ北海道廳ノ指定スル獵獲期限獵場區域内ニ於テ獵獲ニ從事セヨト命令セルニ非スヤ且小笠原島近海ニ臘虎臘肭獸ヲ產生セルトハ曾テ聞サル所ナレハ其懸念ハ無要ナリ又浦鹽斯德ニ於テ買得セシ生皮ノ如キハ本案ノ提轄力ノ及フ所ニ非ス若シ之ヲ問ハントセハ獨リ浦鹽斯德港ニ止マラス合衆國ノ諸港ニモ及ホササルヲ得サルナリ蓋シ本案施行後ハ日本人カ北海道ニ於テ密獵セシ生皮ヲ露西亞人ノ手ヲ經テ更ニ本邦ニ輸入スル有リ又米利堅人ノ密獵セシ生皮ヲ日本人ノ手ヲ經テ輸入スル等種々ノ奸詐ヲ行フナル可ク是等ニ對シテハ其實際ニ就テ本法ヲ擬施スルヲ得ヘキモ一モ之ヲ法網ヨリ洩ス無ラシムル如キハ此ニ證言スル能ハ

ス然レモ本案ハ本ト北海道ニ於テ獵獲セシ生皮ノ輸入ヲ取締ルニ在レハ假令ヒ情ヲ知ラスシテ無檢印ノ生皮ヲ外國人ヨリ購求シタリト陳スルモ既ニ北海道ノ管内ニ於テ購求セハ暗ニ其生皮ハ北海道ニ於テ獵獲セシ者ナルトヲ知レルヤ明カナリ然ラハ則チ單ニ情ヲ知ラサルトノ遁辭ヲ以テ之ヲ恕宥ニ付ス可ラサルヤ亦明カナリ故ニ之ヲ糾問シテ賣渡者即チ密獵者ヲ知ルヲ得ハ直チニ追捕スルハ容易ナルノミ

○一番山口
尙芳

本案ハ憂慮少ナカラサル法案ナレハ舉テ調査委員ニ付託セントヲ建議ス聞ク十七年第十六號ヲ以テ臘虎臘肭獸獵獲禁止ノ布告ヲ發布シタル以來其但書ニ依リ農商務卿ノ特許狀ヲ得タル者ハ未タ一人モ之レ有ラスト果シテ然ラハ從來北海道ニ於ケル臘

虎臘納獸ハ盡ク密獵者ノ手裡ニ落ル者ニシテ豈其取締リヲ忽カセ
ニス可キナランヤ本官ハ本案實施後ニ於テ其徒法ニ屬センコトヲ恐
ルヲ以テ充分ニ審査ヲ加ヘンコトヲ欲ス且然ク急施ヲ要スル法案ニ
モ非サレハ願クハ本官ノ建議採用センコトヲ

○十一番 渡邊 一番ノ建議ヲ賛成ス番外ハ云フ第四條ノ但書ハ本案
ノ要旨ノ一半ヲ占ムト本官ハ一層ニ感觸ヲ深クシ本案全體ノ精神
ハ殆ント此但書ニ存セリト信ス故ニ懸念ス可キ事項モ亦隨テ夥多
ナリトス今其一斑ヲ舉ケンニ露領米領ニ於テ獵獲シタル生皮ヲ輸
入スル場合ニ於テ其證明書ヲ差出セト命スルモ果シテ何處ニ差出
ス可キヤ且其犯則者ハ何様ニ處分ス可キヤ共ニ甚タ明瞭ヲ缺ケリ
既ニ某議官ノ論セシ如ク密獵者ノ第四條ヲ犯シタルキハ刑法第三

百七十三條ヲ適用シテ可ナルモ特許狀ヲ帶有スル犯者モ尙ホ刑法
第三百七十三條ニ擬シ產物竊取ノ罪ヲ以テ論ス可シトハ本官ノ大
ニ安ンセサル所ナリ加之本案ハ各交際國人ニ關涉スルナレハ調査
委員ヲ置キテ調査スルヲ可トス若シ幸ニ之ヲ置クニ至ラハ外務大
臣ト外國公使トノ間ニ成レル協議ノ顛末ヲ聞キ且北海道廳及ヒ農
商務省ノ意見ヲ徵シテ充分ニ講究センコトヲ要ス

○議長 發言將ニ盡キントスルニ際シ一番ノ建議出タルモ個ハ第一
讀會ヲ畢レル後ニ取決ス可シ

○議長 第一讀會ヲ畢ル一番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ一番ノ建議ハ成立セス各位散會セヨ

午前第十一時四十五分開場

元老院會議筆記 明治十九年十二月十日

○第五百三十三號議案

職虎并臘肭獸獵獲及
共生皮輸入販賣規則 第二讀會

議長 大木喬任

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 二番 | 伊東 祐磨 |
| 三番 | 鍋島 直彬 |
| 四番 | 楠本 正隆 |
| 六番 | 林 友幸 |
| 七番 | 西 周 |
| 八番 | 長松 幹 |
| 十一番 | 渡邊 清 |

十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十五番	渡邊	驥
十七番	本田	親雄
十八番	神田	孝平
二十番	野村	素介
二十一番	福原	實
二十四番	小畑	美稻
二十七番	海江田	信義
三十一番	田邊	太一
三十三番	伊集院	兼寛

三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十八番	津田	真道
三十九番	楫取	素彦
四十一番	穴戸	璣
四十二番	田中	芳男
四十四番	安藤	則命
四十五番	長岡	護美
四十六番	大久保	一翁
四十九番	伊丹	重賢

- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 五十六番 官本 小一
- 五十八番 東久世通禧
- 六十番 中村 正直
- 六十二番 壬生 基修
- 六十六番 神山 郡廉
- 六十八番 由利 公正
- 六十九番 長谷部辰連

内閣委員 番外一番 法制局參事官股野 琢

午前第十時十五分開場

○議長 本日ハ第五百三十三號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵場區域内ニ於テ臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帯シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

○十三番 清岡公張 本案ニ對シテハ第一讀會ニ於テ調査委員ヲ置ク可シトノ建議出テ本官之ニ同意ヲ表セシモ不幸ニシテ消滅シタルハ遺

憾ニ堪ヘス顧フニ内閣ニ於テ詳細ニ調査ヲ加ヘシナランモ新創ノ
 法則ナルヲ以テ文意ノ完全ヲ缺クヤ少ナカラス本案ハ以テ密獵ヲ
 禁スル爲メニスルニ非ス脱稅ヲ防ク爲メニスルニ非ス又營業者ヲ
 保護スル爲メニスルニ非ス内閣委員ノ云ヘル如ク臘虎ハ我カ北海
 道ノ名産ナレハ厚ク保護ヲ加ヘテ蕃殖ヲ謀ラント欲スルノミ十七
 年第十六號布告ハ全ク臘虎ノ獵獲ヲ禁止セルニ非スシテ之ニ但書
 ヲ附シタルモ其實ハ全ク禁止スルヲ宜シトス此ノ如クセハ年ヲ逐
 テ臘虎ノ蕃殖ヲ致スヤ疑ヒ無シ本案ノ主意ハ蓋シ此ニ在ルナリ是
 ヲ以テ其法文タル故サラニ意義ヲ曖昧模糊ノ中ニ置ケリ且ヤ本案
 ハ日本人ノ爲メニ設クルヨリモ寧ロ外國人ノ爲メニ設クル者ナレ
 ハ尤モ注意シテ完全ナル法律ト爲スヲ要ス然ルヲ若シ缺漏ヲ致ス

有ラハ其弊患ヤ測ル可ラス既ニ第一讀會ニ於テ本官ノ演述セシ如
 ク第一條ノ「明治十七年第十六號布告但書ニ據リ」ト言ヘル冒頭ノ
 如キ勅令タル法文ニハ妥當ヲ缺ケリ本案ハ素ト第十六號布告ヨリ
 生出スルモ該布告タル現ニ獵獲ヲ禁止セル者ナレハ自ラ殊別ノ法
 律ナルニ恰モ第十六號布告ノ手續書ノ如ク文辭ヲ立ルハ本官ノ首
 肯セサル所ナリ然ルモ此等ハ單ニ法文ノ体裁ニ關スルノミナレハ
 或ハ瑣末ノ事ト做ス可キモ末文ノ「從事スヘシ」ト言ヘル如キハ從
 事セサル可ラスト云フニ疑ハシ是レ首トシテ修正ヲ加ヘ以テ律意
 ヲ明白ナラシメサル可ラス又第三條ノ「生皮」ノ文字ノ如キモ或ハ
 熟皮ト擬似スル患ヒ無キ能ハス從來獵船内ニ於テハ熟皮ヲ製セル
 一無キモ此布告ノ一タヒ發スルヤ外國人ハ或ハ此法文ニ依據シ纔

カニ製熟ヲ加ヘテ生皮ニ非スト爲シ以テ法律ヲ干犯スル有ルモ恐クハ之ヲ制スル能ハサル可シ果シテ然レハ第三條ハ徒法ニ屬セントス本案ノ旨意果シテ擅恣ナル獵獲ヲ禁止スルニ在ラハ獵獲販賣及ヒ輸入共ニ嚴重ナル取締法ヲ設ケサル可ラス然ラサレハ其獵獲セル生皮ヲ日本ニ輸入セスシテ朝鮮地方ニ輸到シ以テ巧ニ法網ヲ免ル、無キヲ保セス日本人ノ如キハ第三條ノ法文ヲ以テ充分ニ禁制スルヲ得ヘキモ決シテ之ヲ外國人ハ施行スル能ハサラン以上ノ意見ニ據テ修正ヲ加ヘント欲セハ此議場ニ於テ討議辯論スルモ能ク盡ス所ニ非ス又第四條ニハ「該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ」ト言ヘリ番外ハ臘虎臘豚獸ヲ販賣セントスル者ヲ發見スルハ直ニ其物品ヲ沒取スト云フモ法文ニ之ヲ明掲セス又「告發」トハ設辭少

シク過大ニ失ス且告發ト言ヘハ必ス其罰ヲ定メサル可ラス此ノ如キ曖昧ナル法律ヲ以テ外國人ヲ管制セント欲スルモ彼レ決シテ承服セサラン若シ或ハ外國公使領事ヨリ日本裁判官ハ告發ノ場合ニ於テ如何ナル處分ヲ爲スヤヲ問フ有ラハ我レ何ノ辭ヲ以テ之ニ答ヘントスル耶然リ而シテ其處分タル刑法第三百七十三條ニ擬ス可キヤ否ヤヲ審査セントスルモ是亦議場ニ於テ決定スルヲ得ヘキニ非ス若シ本案ヲ修正シテ完美ノ法律ト爲サントナラハ多ク外國ノ法例ニ參考スルヲ要ス故ニ今日ヲ以テ第二讀會ヲ通過セシムルハ尤モ望慮ニ堪ヘサルナリ各官此ニ熟思ヲ加ヘ以テ修正委員ヲ置ントスル本官ノ建議ヲ贊同センコトヲ望ム

出席

十九番

福羽 美靜

○十一番 渡邊清 十三番ノ陳辨セル旨意ハ甚タ明白ニシテ一一肯綮ニ中レリ本官尙ホ聊カ補陳センニ臘虎臘胸獸ハ米領露領及ヒ我カ北海道ノ特産物ニシテ他ニ其類ヲ見ス然ルニ昨日内閣委員ノ言ヲ聞クニ日本人ニシテ獵獲ノ特許ヲ得タル者ハ一人タモ之レ無ク多クハ英佛二國人ニ雇役セララル、ノミ或ハ彼レ日本人ノ名目ヲ借リテ獵獲ニ從事スル有リト云ヘリ其取締亦疎漫ナリト謂フ可シ聞ク近年露領唐太ニ於テハ英佛ノ獵船ヲ差押ヘタリト我國ノ如キハ只其獵獲ヲ禁止スト云フニ過キス然リ而シテ今後ハ外國人ノ北海道ニ獵獲スル有ルヤ此規則ヲ以テ處分セント欲スルナレハ外國人ハ定メテ其國語ニ翻譯スルナラン故ニ審密ニ調査ヲ加ヘ以テ完美ノ法律ト爲サ、ル可ラス十三番モ云フ如ク第一條ノ冒頭ニ第十六號布

告但書ノ説明ニ類スル文辭ヲ置クハ甚タ法文ノ體裁ヲ失ス廣ク外國人ニ示ス可キ法律ハ其体裁ト雖モ輕忽ニ付ス可ラス且他條ニモ完全ナラサル箇所間マ多シ此ノ如キ法律ヲ以テ外國人ヲ管制セント欲スルモ到底能ハサル所ナレハ必ス修正委員ヲ設ケテ充分ニ修正スルヲ要ス因テ十三番ノ建議ニ同意ス

出席 五十一番 中村 弘毅

○四十二番 田中芳男 本官モ修正委員ヲ置クノ建議ヲ賛成ス十一番十三番等ノ言ヲ聞クモ愈ヨ此法案ノ完全ナラサルヲ知ル抑モ臘虎ハ北米露西亞及ヒ我カ北海道ノ特産物ニシテ殊ニ千島ノ如キハ臘虎ヲ産スル最モ多シ而シテ常ニ外國人ノ獵獲スル所ト爲ル然ルニ外國人ノ臘虎ヲ獵獲スルヤ之ヲ其本國ニ齎ラシ還ラハ猶ホ可ナルモ公

然ニ日本國內ノ市場ニ販賣スルニ至テハ實ニ恕ス可ラサルノ所爲ト謂フ可シ本案ハ此等ノ外國人ニ對シテ取締ヲ施サントスル法規ナレハ修正委員ヲ置キテ充分ニ修正ヲ加ヘサル可ラス

○六十番 中村正直 十三番ノ建議ヲ賛成ス本案ハ意義ノ明瞭ヲ缺ケル箇所頗ル多ク殊ニ第四條ノ但書ノ如キ之ヲ直解スレハ恰モ日本人ニシテ外國人ノ免許ヲ受ルノ看ヲ呈ス此等ハ尤モ精密ニ修正スルヲ要ス是レ本官ノ賛成ヲ表スル所以ナリ

○議長 十三番ノ建議ノ決ヲ取ラン

○股野 一番 外 本案ハ急施ヲ要スト云フニ非サルモ外國人ニ關係スル法律ナレハ本院ノ議定ヲ經ルヤ外國公使等ト談判ヲ開カントス故ニ成ルヘク時日ヲ費サ、ルヲ要ス然レモ十三番ノ建議ノ如ク修

正委員ヲ置クヲ必要ナリトセハ固ヨリ已ムヲ得サルモ十三番其他二三議官ノ言フ所ヲ考フルニ本員ハ未タ修正委員ヲ置クノ必要ヲ見出ス能ハス思フニ其旨意ノ存スル所ハ只此法律ノ新創ニ係ルヲ以テ宜シク審査ヲ加フヘシト云ヒ其他ハ第一條ノ冒頭文ハ体裁ヲ得スト云フニ過キス然ルモ第一條ニ此ノ如キ冒頭文ヲ置クハ英佛文等ニ翻譯スルニ易カラシメン爲メニシテ之ヲ英佛文ニ翻譯スルハ却テ妥當ヲ得ルナリ又「告發」云々ヲ非難セルモ内外國各其罰則ヲ異ニスレハ本案ニハ罰則モ明掲スル能ハス故ニ單ニ「告發」スヘシト言フニ止メタリ以上數箇ノ疑點ニ關シテハ前キニ本員ノ辯明セシ所ヲ翫味セハ各官ニ於テ全ク氷解セラル可キヲ信ス尙ホ他ニ不明ノ箇所アラハ幾回ニテモ質問ニ應ス可ケレハ修正委員ヲ置ク

如キハ之ヲ止メンヲ望ム

○十一番 渡邊清

内閣委員ノ言フ所ハ其職務ニ於テ固ヨリ當サニ然ルヘキモ若シ速カニ議決スルヲ要セハ却テ修正委員ヲ置クヲ得タリトス議場ニ於テ逐條ヲ討議スルハ寧ロ議事ノ延滞スル恐レ有リ本官ノ如キハ各條ニ修正ノ意見ヲ有ス内閣委員ハ本院ニ於テ議定セハ外國公使等ニ談判スルヲ要スト云フモ是レ順叙ヲ顛倒セルニ非スヤ若シ本院ノ議定後ニ外國公使等ノ承諾セサル有ラハ爲メニ我カ政府ノ体面ヲ傷ツケン曩者石油規則ノ施行ヲ止メタル如キ以テ殷鑑ト爲スニ足レリ本官嘗テ西洋各國元老院ノ例規ヲ聞クニ會議ニ先タチ充分ニ議案ヲ審査スルヲ以テ既ニ議場ニ提出スルニ至テハ決シテ紛議ヲ生スルコト無シト況ンヤ本案ノ如キ外國人ニ關係ヲ

有スル者ヲヤ又内閣委員ハ「告發スヘシ」ト言ヒテ罰則ヲ掲ケサルハ内外國各其罰例ヲ異ニスルニ由ルト云フモ本案ニ罰則ヲ掲ケサルハ日本ト雖モ濫リニ之ヲ罰スルヲ得ス而シテ是亦刑法ヲ適用スルヲ得サレハ甚タ處分ニ支障セントス此等ノ各事ハ修正委員ニ付托スルニ非サレハ好修正ヲ加フルヲ得サルナリ

○五十八番 東久世通禧

修正委員ヲ置クノ建議ニ對シ一言セン本案ハ甚タ制裁力ニ乏シクシテ無瑕ノ法律ト稱スルヲ得サルモ本ト外國人ニ關係スル者ナレハ實ニ已ムヲ得サル可シ縱令ヒ修正ヲ加ヘテ完美ナラシムルトモ其効用ノ有無ハ豫メ料ル能ハス然レモ或ハ修正ニ因テ多少効用ヲ得セシムルヤモ知ラサレハ試ミニ修正委員ニ付托スルモ亦可ナラン因テ本官ハ前會ニ反シテ十三番ニ同意ス

○十三番 清岡公張 本官ノ建議ハ本案ノ完全ナラサルヲ確認セシニ出ツ
 決シテ漫然ニ憂慮スルニ非ス然ルニ内閣委員ハ本官ノ意旨ヲ誤解
 セルニ似タリ思フニ此法律ハ創設ニ係リ實驗ヲ經ル無キヲ以テ其
 構成ノ完全ヲ缺ケルコトハ前會以來屢ハ本官ノ陳述スル所ニシテ今
 其不完全ノ諸點ヲ補繕セント欲スルナリ又第四條ノ「告發」ノ事ニ
 關シ某議官ハ外國人ニ施行スル能ハスト云フモ本案ニ明文ヲ掲ケ
 サル以上ハ日本人ト雖モ尙且處罰スルヲ得ス刑法ヲ参照スルモ臘
 虎獵獲ノ件ニ係ル法禁ヲ示セル無シ然レハ則チ別ニ單行法ヲ設ケ
 テ以テ之カ罰例ヲ定メサル可ラス否ラサレハ本案ニハ同意スルヲ
 得サルナリ

○議長 十三番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○十一番 渡邊清 十三番建議ノ消滅セシ以上ハ已ムヲ得ス本場ニ於テ

本官ノ意見ヲ陳セン然ルニ今先ツ一言ス可キ有リ即チ第一條ノ本
 文ト此案ノ題號トハ之ヲ分チテ決ヲ取ンコトヲ望ム此案ノ題號ニ掲
 クル「生皮」ノ文字ハ改メテ皮革ト爲サン思フニ生皮ノ文字ヲ存セ
 ハ言フニ忍ヒサルノ弊害ヲ生セントス因テ此修正說ヲ提出ス

○五十六番 宮本小一 「生皮」ノ文字ヲ置クハ弊害ヲ生シ易シ本家中悉ク
 皮革ニ改ムルヲ可トス乃チ十一番ヲ賛成ス

○議長 十一番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○四十二番 田中芳男 前キニ内閣委員ノ答辯ヲ得テ「生皮」ハ熟皮ニ對ス

ル文字ナルコトヲ領會セリ現問題發議者ノ皮革ト云ヘルハ毛ヲ剝シタル者ヲモ其中ニ包含セシムル意ナランモ本官ハ寧ロ毛皮ト改メント欲ス蓋シ擬製熟皮ノ輸入ヲ制止スルニハ修正文字稍ヤ適當ナルモ此カ爲メニ一般ノ皮革ヲ併セテ取押フルニ至リ以テ本案ノ旨意ト背反センコトヲ恐ル、ナリ又或ハ一般ニ皮革ノ販賣ヲ制止スル意ナルヤヲ知ラサレモ其實効ヲ奏スル能ハサレハ徒勞ニ屬センノミ故ニ現問題ニハ同意セス

退席

三十八番

津田 眞道

○十一番 渡邊 清 本官ハ四十二番ノ言フ所ヲ理會スルニ苦シム上文ニ「臘虎」云々ト言ヒ而シテ下文ニ「其生皮」ト言ヘハ臘虎臘納獸ノ生皮ヲ指スヤ明白ナリ要スルニ是レ生皮熟皮共ニ臘虎臘納獸ノ二物ニ

限り輸入ヲ禁制スルニ在リテ決シテ他ノ皮革ニ及ホスニ非ス又四十二番ハ毛ヲ剝シタル者ト云ヤスルモ臘虎皮ニシテ毛ヲ剝セハ何ノ用ヲカ之レ爲サン此等ハ掛念スルヲ須非サルナリ

○十三番 清岡 公張 皮革ト改ムルハ取締上ニ必要ナリト信スルモ「生皮」ノ文字ヲ掲ケテ熟皮ノ文字ヲ掲ケサルハ必ス其故アラン思フニ船内ニ於テ熟皮ヲ擬製スルモ此法ハ効用ヲ奏スル能ハサルニ似タリ内閣委員ノ此點ヲ辯明スルヲ求ム

○股野 琢 十一番ノ生皮ヲ皮革ト改ム可シト云ヘルニ對スル四十二番ノ辯論ハ深ク本員ノ心ヲ獲タリ故ニ本員ハ沈黙ヲ守ラント欲セシモ十三番ノ質問ヲ受タルヲ以テ一言之ニ答ヘン十一番ノ修正ノ如クスレハ生皮熟皮共ニ取押フルニ至ラン本案ニ生皮ト言ヒ

シハ熟皮ニ反對スルヲ示スナリ例ヘハ魯領ニ於テ獵獲セシ臘虎ヲ
 生皮ノマ、ニテ英國ニ販賣シ英國ニ於テ之ヲ熟皮ニ製シ以テ諸國
 ニ販賣スルト爲サンニ此等ノ熟皮ニ對シテハ此法ヲ施行セス設令
 ヒ之ヲ施行セントスルモ決シテ其効功ヲ見ル可キニ非ス彼ノ船内
 ニ於テ擬製スル如キハ時ニ臨ミ其裁制法ヲ設ク可キノミ

○十三番 清岡
公張

内閣委員ノ辯明ヲ領ス本案ハ其題號ニ據ルニ只我カ
 北海道ニ於テ獵獲セル臘虎膾舘獸ノ生皮ヲ輸入販賣スル者ニ對セ
 ル取締法ニ係レリ故ニ露英等ノ諸國ヨリ製作ヲ經テ輸入スル熟皮
 ハ此限外ニ在リテ本法ノ効力ノ及ハサル所ナリ然ルニ苟クモ取締
 法ヲ設クル以上ハ務メテ完全ニシテ遺漏セシメサルヲ要ス否ヲサ
 レハ本法ヲ發スルモ恐クハ實行スル能ハサラントス故ニ北海道ニ

於テ獵獲セシ者ハ生皮ト熟皮トヲ問ハス共ニ檢制ヲ加フルヲ可ト
 ス外國ノ産出ニ係ル者ニ至テハ復タ已ムヲ得サルノミ因テ十一番
 ノ生皮ヲ皮革ニ改ムル動議ニ左袒ス

○十一番 渡邊
清

内閣委員等ハ皮革ト改ムレハ一般ノ皮革類ヲ取押フ
 ルニ至ルト云フモ我邦素ヨリ輸入ニ關スル規則ノ存スルナレハ此
 等ノ事犯ハ皆此規則ニ照シテ處分スルナリ然ルニ本案ハ全ク別箇
 ノ法律ニ係リ即チ第一條ニ掲クル如ク十七年第十六號布告ニ基ツ
 キ特ニ北海道ニ施行スル者タルハ十歳ノ童子ト雖亦能ク之ヲ知
 ラン然レハ則チ生皮ヲ皮革ト改ムルモ決シテ一般ノ皮革類ニ及ホ
 スノ掛慮ヲ要セス此等ノ瑣々タル事項ニ掛慮センヨリハ寧ロ法律
 ノ完全ナルヲ求ムルニ如カサルナリ

○外一番股野

本員ノ辯明ノ未タ足ラサル所アルカ某議官ハ生皮ヲ皮革ト改メサレハ充分ノ取締ヲ爲ス能ハスト云ヒ又本案ヲ以テ只我カ北海道ニ於テ獵獲スル者ノミニ施行スル者ト爲セルニ似タリ是レ第四條ヲ除却セシ一己ノ見解ニシテ大ニ本案ノ旨意ニ背反ス要スルニ生皮ト爲サ、レハ事ニ於テ甚タ支障ヲ致スヲ免レス

○六十五番宮本

尙ホ一事ノ質問ヲ要スル有リ外國ヨリ輸入スルルキハ各港在留領事ヨリ證狀ヲ呈スルヲ以テ其出處ノ確實ナルハ固ヨリ弔慮ヲ須ヒス但曩キニ北海道ニ開拓使ヲ置キシ頃ヨリシテ外國人ノ屢ハ臘虎ノ熟皮ヲ輸入セシコト有リ思フニ其熟皮ハ必ス各港ニ於テ之ヲ製スルナランモ或ハ奸商輩ノ千島ニテ獵獲シタル者ヲ直チニ島地ニ於テ熟皮ニ擬製スルヤモ料ル可ラス而シテ本官ノ弔慮

スル所ハ專ラ此ニ在リ故ニ内閣委員又ハ他ノ議官ノ此點ヲ辯明シ以テ本官ヲシテ疑念ヲ散セシメヨ

○外一番股野

外國人ノ輸入スル熟皮ハ皆一旦諸港ニ携到セシ者ニ係リ千島ニ於テ獵獲セシヲ直チニ輸入スルニ非ス

○議長 十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクハ第一條ハ可決ト認ム

書記官森山 朗讀

第二條 臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルト

キハ獵船ノ名、噸數、乗組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該

道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ常ニ船檣又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

○議長 發議ナクハ可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第三條 臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

○議長 可決ト認ム

書記官 森山 茂 朗讀

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場

ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ

警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ告發スヘシ

但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國內ニ輸入スルコトヲ得

○三十一番 田邊 太一 本條ノ但書ハ明白ヲ缺ケリ因テ試ニ修正說ヲ提出ス即チ「所轄内ニ於テ」ノ下ニ其國民ノ三字ヲ挿入スル是レナリ此ノ如クセサレハ日本國民ノ露領内又ハ米領内ニ到リテ獵獲ヲ爲スヤノ疑ヒ有リ故ニ其本國人タルヲ證スル爲メニ此文字ヲ挿入セ

ントス「次キニ臘虎并ニ臘納獸ノ生皮」ノ下ニヲ輸入スルニノ六字ヲ挿入シ「差出シタル」ヲ「差出スヘシ」ト爲シテ其以下ヲ削去セントス是ニ於テカ其旨意始メテ分明ナルヲ得ヘシ

○六十番 中村正直 賛成

○議長 三十一番ノ修正ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外番一股番野 三十一番ノ修正説問題ト爲リタレハ一言以テ原案ノ旨意ヲ明サン現問題ノ如ク其國民ト爲スルハ日本人民ノ彼レノ國地ニ赴キテ獵獲スルニハ毫モ取締ヲ施サ、ルコト爲ル而シテ原案ノ旨意ハ決シテ然ラス且ヤ日米露三國民ノミナラス此他ノ國民ト雖凡テ本法ヲ以テ取締ヲ爲スナリ又原案ニ「生皮ニ於テハ」云々ト爲セシハ大ニ意ヲ用ヒタル所ニシテ他ノ輸入品ハ總テ出港目錄

ヲ要スト雖凡獨リ臘虎ハ海關輸入ノ通常規則ニ遵ハサルモ領事ノ證明書ヲ呈スレハ決シテ其輸入ヲ禁拒セサルヲ以テ此ノ如ク立案セシナリ然ルニ修正文ノ如クスレハ殆ント海關輸入ノ通常規則ト同一ニ歸シ大ニ本法立案ノ精神ニ背違セントス

○三十一番 田邊太一 第一讀會ニ於テ充分ニ質問ヲ爲サス粗率ニ修正ヲ試ミタレハ或ハ原案ノ精神ニ背違スルヤヲ知ラサレ凡臘虎ノ獵獲ニ從事スル者ハ獨リ魯領米領ノミナラス或ハ英領加拿多等ニモ到ルモ料ル可ラス然ルニ本案ニ只日露米三國ノ關係ノミニ限レルハ不完全ナリ且夫レ治外法權ノ未タ撤去セサルノ間ハ我カ法律ハ以テ外國人ヲ管制スル能ハス然レハ則チ此法律ヲ把テ魯米兩國公使ニ協議セルノミニテハ恐クハ其他ノ外國人ヲシテ之ヲ遵奉セシム

ル能ハサル可シ故ニ本案ハ單ニ日露米三國民ノ間ノミニ行ハル、
者ト考フルヲ以テ其國民ナル文字ヲ挿入セント欲セシナリ「輸入」
ノ文字ヲ加ヘシハ後文ヨリ前文ニ繰リ上ケ以テ意義ヲ明白ナラシ
ムルノミ

○議長 三十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス他ニ發議ナクハ本案ハ可決ト認メ第
二讀會ヲ終ル

○外一番股野 第二讀會ニ格別ノ修正ヲモ加フル無ケレハ直チニ第

三讀會ヲ開カンコヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ第三讀會ノ期日ハ追テ報告セン本日ハ散會

セヨ

午前第十一時五十五分開場

元老院會議筆記 明治十九年十二月十三日

○第五百三十三號議案 臘虎并臘豚獸獵獲及第三讀會
共生皮輸入販賣規則

議長 大木
喬任

出席議官

- | | | |
|----|----|----|
| 一番 | 山口 | 尚芳 |
| 二番 | 伊東 | 祐磨 |
| 三番 | 鍋島 | 直彬 |
| 四番 | 楠本 | 正隆 |
| 六番 | 林 | 友幸 |
| 七番 | 西 | 周 |
| 八番 | 長松 | 幹 |

十一番	渡邊	清
十二番	久我	通久
十三番	清岡	公張
十五番	渡邊	驥
十七番	本田	親雄
十八番	神田	孝平
十九番	福羽	美靜
二十一番	福原	實
二十三番	岩下	方平
二十四番	小畑	美稻
二十五番	永山	盛輝

三十一番	田邊	太一
三十三番	伊集院	兼寬
三十四番	上杉	茂憲
三十五番	原田	一道
三十六番	橋口	兼三
三十七番	岩村	定高
三十九番	楫取	素彦
四十一番	穴戶	璣
四十二番	田中	芳男
四十四番	安藤	則命
四十六番	大久保	一翁

- 四十九番 伊丹 重賢
- 五十一番 中村 弘毅
- 五十二番 何 禮之
- 五十三番 岡内 重俊
- 五十四番 調所 廣丈
- 五十五番 大給 恒
- 五十六番 官本 小一
- 五十八番 東久世通禧
- 六十番 中村 正直
- 六十二番 壬生 基修
- 六十六番 神山 郡廉

六十八番 由利 公正

六十九番 長谷部辰連

内閣委員番外一番 法制局参事官 股野 琢

○議長 第五百三十三號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

臘虎并臘納獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵場區域内ニ於テ臘虎并ニ臘納獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帶シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ム

ルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

○四十二番^{田中芳男} 第三讀會ニ當リ内閣委員ニ質問ヲ爲スハ時機晚キニ似タレ^{田中芳男}聊カ疑ヲ訂サン第一條ノ特許ヲ得及ヒ第三條ノ檢印ヲ受ルニハ手數料ヲ要スルヤ若シ之ヲ要セハ其金額ハ幾許ナルヤ

○^外一番^{股野} 特許ヲ得若クハ檢印ヲ受ルハ總テ手數料等ヲ要セス只是レ取締ヲ加フル爲メノミ

○四十二番^{田中芳男} 内閣委員ノ答辯ハ之ヲ領ス第一讀會ニ修正委員ヲ置ントスル説出テ消滅ニ歸シ第二讀會ニモ同説出テ又消滅ニ歸シタルヲ以テ本會ニ於テハ容易ニ議定スヘキモ奈何セン手數料檢印料等ヲ要セス又罰則ヲモ設ケスシテ單ニ告發スルノミニ止ムルハ甚タ不完全ナリ故ニ本會ニ於テ全部付託修正委員ヲ置キ充分ニ審

議センコトヲ建議ス

○五十六番^{宮本小一} 四十二番ノ建議出タレ^{田中芳男}第三讀會ニ修正委員ヲ置ケル例アルヤ否ヤヲ知ラサルヲ以テ今俄ニ之ヲ賛成スルヲ得ス前ニ第一讀會及ヒ第二讀會ニ於テ修正委員ヲ置クノ説ニ同意セシモ不幸ニシテ成立スルヲ得サリシ故ニ本官ハ遺憾ナカラ本會ニ於テ廢案説ヲ提出ス其理由タル此案ノ外國人ニ關係ヲ有スルカ爲メナリ從來外國人ニ關係ヲ有スル法律少ナカラスト雖^{田中芳男}未タ此案ノ如キ不備不明ナル者ヲ見ス彼ノ鳥獸獵規則鐵道規則等ハ皆外國人ニ涉及スルコト無ク若シ外國人ニシテ之ヲ犯セル有レハ内地施行ノ法律ニ據テ其處分ヲ請求スト聞ケリ過日内閣委員ノ辯明ニ今日マテ一人タモ農商務省ニ特許ヲ出願セル者アラスト云フヲ以テセハ恐

ラク此案ハ日本人ノ爲メニハ徒法タラン故ニ暫ク其發布ヲ止メ只内國人民ニ取締ヲ施スノ目的ヲ以テ一規則ヲ制定センコトヲ望ムト一番モ論セシ如ク第一條ニ「農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ」ト言ヒ而シテ其末文ニ「從事スヘシ」ト言フハ甚タ不妥ナリ又四十二番モ難セシ如ク特許料手数料等ヲ徵セス且特許ヲ請サルキ檢印ヲ受サルキ徽章ヲ掲ケサルキ無檢印ノ生皮ヲ賣却スルキ等ノ罰則ヲ設ケサルハ甚タ制裁ヲ缺ク此ノ如キ法律ヲ布クハ甚タ失體ナリトス曩ニ五百石以上日本形船ノ製造ヲ禁止セル布告ニハ其罰則ヲ掲ケサルモ本案ハ之ニ倣フ可キニ非ス第三條ノ「當該官吏」ナル文字ノ如キモ解スルヲ得ス又「檢印ヲ受クヘシ」ト令告スル文中ニ括弧ヲ加ヘテ官吏ノ處置ヲ示スハ自ラ他ヲ混淆ス第四條ノ但書ノ如キハ

最モ不妥ニシテ三十一番ノ誤解ヲ致セルモ強チ謂ヒ無キニ非ス前會以來全部付託修正委員ヲ設クル建議ノ少數ニシテ消滅セシハ各官或ハ此案ヲ視テ外交ニ關スト爲シ以テ原案ノ如ク議定上奏セントスルナル可キモ今日ニ在テハ此マ、ニ内閣ニ還上スルヲ望ム若シ實際上其取締法ヲ要ストナラハ農商務省令ヲ以テ十七年第十六號布告但書ニ據リ之レカ取締法ヲ設ケハ可ナリ何ソ此案ヲ發セサレハ取締ヲ爲ス能ハスト云フノ理アラシヤ故ニ本官ハ不愉快ナカラ廢案說ヲ提出スルナリ若シ各官ニシテ四十二番ノ建議ニ同意セハ本官敢テ之ヲ非視セサレハ願クハ更ニ熟考ヲ下サンコトヲ

○十九番 福羽美靜 前會ニ修正委員ヲ置ク建議出タルニ因リ其行ハレンコトヲ希望セシモ少數ニシテ消滅ニ歸セリ然ルニ一字一句ノ修正ヲ

モ加フル無クシテ決了スルハ頗ル怪訝ニ堪ヘス第一條ノ「從事スヘシ」等ノ文字ハ甚タ不妥ナリ其他各條ノ不妥ナル點ハ各官ノ既ニ論シタル所ナルヲ以テ別ニ喋辯セス姑ラク四十二番ノ修正委員ニ付託スル建議ヲ賛成ス若シ此建議ニシテ消滅ニ歸セハ此案ハ内閣ニ還上センコトヲ望ム要スルニ斯ノ如キ不完全ナル法案ノマヽニ議定上奏スルハ本院ノ不深切ナルヤノ嫌ヒ有レハナリ

○十一番 渡邊清

四十二番ヲ賛成ス元來本案ノ不妥ナルハ第一讀會以來縷陳セシ所ナルヲ以テ更ニ喋辯セサル可シ本官モ第二讀會ニ於テ修正ヲ加ヘント欲セシモ行ハレサリシ是ヲ以テ本會ニハ廢案說ヲ主張シ若シ行ハレサレハ本案ヲ上奏スルニ當リ別ニ意見書ヲ附奏シ又若シ此說モ行ハレサレハ本官一己ニテ吾カ意見ヲ上申セン

ト決心セリ然ルニ幸ニ修正委員ヲ置クノ說出タルヲ以テ其說ニシテ行ルルヲ得ハ内閣委員ニ協議シ充分ニ修正スルノ便宜ヲ得ントス某議官ハ第三讀會ニ修正委員ヲ置クノ例アルヤ否ヤヲ疑ヘ且第三讀會ニ於テ議論紛出セハ更ニ確定決議會ヲ開クノ例アルヲ以テ修正委員ヲ置ク如キハ肯テ妨ケ無シト信ス各官中或ハ本案ヲ輕視シ修正ヲ要セスト認ムル有ル可キモ本案ハ到底不明備ヲ免レス且急速ニ議定ヲ要スル者ニ非サルヲ以テ修正ノ爲メニ若干日ヲ過クルモ不都合ヲ見サラン内閣委員ハ脱稅ヲ防ク爲メニ本案ヲ要スト言フ如キモ本案ヲ以テ脱稅ヲ防キ得ヘキニ非スト信ス敢テ四十二番ノ建議ノ成立センコトヲ望ム

○四十九番 伊丹重賢

本官モ四十二番ニ同意ス前會ニ修正委員ヲ置クノ

說ニ對シ起立ヲ以テ同意ヲ表セシニ僅ニ半數ニ滿タスシテ消滅ニ
 歸シタルハ甚タ遺憾ナリ爾後修正說出シモ一モ行ハルル無クシテ
 原案ニ決シ以テ第二讀會ヲ經過シタルハ怪訝ニ堪ヘス是レ各官ノ
 本案ノ大體ニ不同意ナルヨリ修正ヲ爲スノ意思ヲ拋棄セシニ由ル
 ナラン今ヤ第三讀會ニ方リ廢案說出テ又意見書云云ノ說出タルハ
 是レ第三讀會ニ於テ修正委員ヲ置クヲ異例ナリト顧慮スルニ在ル
 可シ讀會規則附則第二條ニ「何レノ會ニ於テモ議官ノ動議贊成多
 數ノ決ニ由テ委員ヲ撰ミ議案ノ全部或ハ一部及其它會中ノ事務ヲ
 附托スルヲ得此委員ハ其附托セラレタル事ニ付テノミ之ヲ處分
 シ且之ニ付テノ報告ヲナス可シ」ト言ヒ且從來ノ慣例モ之レ有ル
 ヲ以テ第三讀會ニ修正委員ヲ置クヲ妨ケス因テ四十二番ニ贊成ヲ

表シ併セテ各官ノ疑心ヲ斷ツ爲メニ一言ス

○三十一番 田邊太一 第一讀會以來修正委員ヲ置クノ說出タレト本官ハ

外國人ニ關係スル法案ナルヲ以テ獵獲取締ノ爲メニ姑ク之ヲ忍ブ
 可ク只第四條ノ但書ニ修正ヲ加ヘント欲シ爲メニ其說ニ同意セサ
 リシモ第二讀會ニ於テ本官ノ意見ヲ提出セシニ訥辯ノ故ニ由ルカ
 不幸ニシテ意味徹底セステ消滅セリ因テ今回ハ四十二番ノ建議
 ヲ贊成ス

○六十番 中村直 廢案ト爲スニ如カサレト修正セハ幾分カ改良スルヲ
 得ヘキニ因リ先ツ四十二番ヲ贊成ス

○十三番 清岡公張 議場ノ慣例ハ熟知セサレト第三讀會ニ於テ修正委員
 ニ付託スルヲ得ハ稍ヤ可ナリ若シ然ラサレハ廢案ト爲シ農商務省

令ヲ以テ取締規則ヲ發シ内國人ニ限り取締ヲ施スコト爲スヲ得タ
リトス四十二番ノ建議ノ成立センコトヲ請フ

○一番山口 尙芳 本案ニ關シテハ第一讀會ニ修正委員ヲ設ク可シト建議
セシモ行ハレス是レ議場ノ本案ヲ是認シタルナル可シト信シ爾來
沈黙ヲ守リシニ本會ニ至リ廢案說ノ提出ヲ見ルニ會ヘリ本官ハ第
一條乃至第三條ハ文字ノ不安ナルニ止マルモ第四條ノ但書ニ至リ
テハ大ニ然ラスト信ス三十一番五十六番ノ言フ所ノ如キハ實驗說
ニ係ルヲ以テ本官モ大ニ其感ヲ同ウス第四條ニ「當該官吏ノ檢印
ナキ臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ」云云ト言フモ外
國人ニシテ何ソ某所ニ獵獲セシコトヲ明言スル有ランヤ又「市場ニ
販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ」云云ト言フモ外

國人ニシテ何ソ此法令ヲ遵奉スル有ランヤ斯ノ如キハ到底外國人
ノ笑柄ト爲ルヲ免ルル能ハサル可シ然ラハ本案ヲ看テ日本人ニ
ミ施ス者ト做サンカ帝國諸港云云ノ文字ハ内國ニ施ス法文ノ體裁
ニ非ス是亦文字上ニ於テモ外國人ノ笑柄ト爲ルヲ免ルル能ハサル
可シ若シ夫レ但書ノ事ニ關シテハ本官ハ深ク憂慮セス例ヘハ馬耳
塞港若クハ桑法朗斯哥港ヨリ輸入シタル者トセシニ該地領事ノ證
明書ヲ呈セサレハ密賣品ト爲ス可キヲ以テナリ又若シ橫濱港ノ領
事之ヲ證明セハ固ヨリ其輸入ヲ許ス可キノミ第二讀會ニハ缺席セ
シヲ以テ其景況ノ何如ヲ知ラサレモ今ヤ外國人ノ嗤笑ヲ招クヲ恐
レテ陳辯スルコト爾リ

○議長 四十二番ノ建議ノ決ヲ取ラン

○番一 股野 修正委員ヲ置ク建議ニ對シ一言セン前會以來各議官ノ本案ヲ非視スル說ヲ聞クニ或ハ單ニ明備ヲ缺クト云ヒ或ハ外國人ニ關係スル法律ナレハ務メテ闕漏ヲ防ク可シト云フノミ未タ其瑕疵ノ存スル所ヲ指摘スル有ラス且ヤ各官中或ハ本案ノ意義ヲ誤解スルヨリシテ不同意ヲ唱フル無キヲ保タス其他文字ニ關シ發論アリシモ文字ノ不妥ナルハ修正ヲ加ヘハ可ナリ決シテ此ヲ以テ本案ノ大體ヲ動カスヲ得ヘカラス是ニ由テ之ヲ言ヘハ只其反對論者ノ多キノミヲ以テ本案ヲ目シテ不明不備ト爲ス可キニ非ス前キニ十一番議官ニ答辯セシ所ヲ以テスルモ本案起草ノ主旨ハ各官ニ於テ既ニ領會セラレシナラン全部修正委員ヲ置ク建議ニ同意セル議官ノ說ヲ聞クニ第一條ノ「明治十七年第十六號布告但書ニ據リ」云

云ノ文辭ハ勅令法文ノ體裁ヲ失スト云フモ是レ本案ノ起原ヲ示スニ在レハ決シテ其不妥ナルヲ見ス又本條末文ノ「從事スヘシ」ト云フ如キモ臘虎臘獸ヲ獵獲セント欲スル者ハ必ス獵場區域内ニ於テ從事スヘク區域外ニ出ルヲ許サ、ルヲ示スニ在レハ文辭ヲ立ル此ノ如クナラサル可ラス又第三條ニ「烙印ヲ用ユルモ妨ナシ」ノ文字ヲ括弧内ニ置キタルハ上文ノ語法ニ隨ヒ之ヲ本文中ニ接入スルヲ得サルヲ以テナリ此等ハ從前ノ法文ニモ往々ニ使用セシ便法ニシテ復タ怪ムニ足ラス又第四條ハ外國人ノ笑柄ト爲ラント云フモ敢テ然ラス本案ハ單ニ日本人ニ示スニ止マレハ固ヨリ帝國ノ文字ヲ要セサレト外國人ニモ關係ヲ有スルヲ以テ各國ノ文字ニ翻譯セシムルノ便宜ヲ計リ外務省ニ於テ此ノ如ク立艸シ内閣ニ於テモ

亦之ニ從テ改メサリシナリ五十六番ハ本案ヲ目シテ取締ノ方法ヲ
 缺クト爲シ廢棄ニ付ス可シト云フモ本案ハ元來彼我ノ協議ヨリ成
 立シタルナレハ瑣々タル文字論ノ爲メニ廢棄ニ付スルヲ得ス又某
 議官ハ第三條マテハ異議無シト云ヒ某議官ハ第一條ノ「但書」云々
 ヲ非視スルモ某議官ハ然ラス此ノ如ク各議官ノ意見互ニ異ナレハ
 假令ヒ修正委員ヲ置クモ恐クハ一定ノ好修正ヲ得サル可シ且ヤ修
 正委員ニ付託スルモ前會ニ十一番ノ提出セシ生皮ヲ皮革ト改ムル
 如キ不完全ノ修正ハ本員ノ取ラサル所ナリ要スルニ既ニ第二讀會
 ヲモ經過セルニ第三讀會ニ至リテ修正委員ヲ置クモ別ニ好修正ヲ
 得ル能ハス反テ原案ノ主旨ヲ傷ツケ一層ニ不明不備ノ法文タラシ
 ムル如キ有ラハ是レ無益ノ煩勞ナルノミ故ニ暫ク原案ノマ、ニ据

置キ試ミニ之ヲ實施スルモ敢テ不可ナル無シト信ス

○十一番 渡邊清

内閣委員ノ辯論ハ議長ヨリ中止セラレタシ原案ヲ保
 持スルハ職分固ヨリ然ル可キモ本院ノ議權ニ關涉スルハ其職分ニ
 非サルナリ

○議長 何ヲカ議權ニ關涉スト謂フ

○十一番 渡邊清

議スル能ハサルニ議スト云ヘル如キ口氣ヲ爲ス是レ
 ナリ

○議長 番外ハ十一番ノ言ヲ以テ然リト爲スヤ

○外一番 股野琢

第二讀會ニ於テ修正委員ヲ置ケハ修正畢ルノ後第三
 讀會ニ於テ更ニ之ヲ議定スルヲ得ルモ第三讀會ニハ一回ノ發言ニ
 止マルヲ以テ十分ニ審議スルヲ得サルヤヲ掛慮セシノミ

○議長 只今番外一番ノ陳スル所ノ如クナレハ議權ヲ犯スト爲サス
番外一番尙ホ續陳スルモ可ナリ

○番外一番 股野 只今陳述セル外ニハ意見ヲ持セス本員ハ唯原案ノ如
ク決了センヲ欲スルナリ

○五十八番 東久世 第二讀會ニ於テ修正委員ヲ置ク建議出テタル
本官之ヲ賛成セシモ同意者少數ニシテ消滅セリ第三讀會ニ於テハ
格段ナル理由ノ存スルニ非サレハ修正委員ヲ置カサルヲ善シトス
因テ建議說ニハ同意セス

○議長 四十二番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 少數ナルヲ以テ消滅ス

○十一番 渡邊 修正委員ヲ置ク建議ノ消滅セル以上ハ已ムヲ得スシ
テ五十六番ノ廢案說ニ同意ス本官ハ唯望ム内閣ニ於テ本院ノ意見

ヲ參考シ以テ更ニ本案ニ訂正ヲ加ヘ然ル後ニ再ヒ下付セラレシ
ヲ且思フニ臘虎膾炙獸獵獲ノ取締法ヲ設ルハ固ヨリ不可ナル無キ
モ其法ノ完全明備ナラサルハ寧ロ之ヲ設ケサルニ如カス故ニ一タ
ヒ内閣ニ返還シ其再考ヲ請フヲ上策ト爲ス是レ本官ノ廢棄說ニ從
フ所以ナリ

○四十四番 安藤 本官ハ原案ヲ是認スルヲ以テ一言セン

○議長 四十四番ハ廢案說ニ同意スルニ非サルニ似タリ何如シ

○四十四番 安藤 廢案說ニ左袒スルニ非ス

○議長 然ラハ暫ク發言ヲ止メヨ

○三十九番 楯取素彦 本官ハ北海道ニ施行スル法律ヲシテ内地ニ施行スル法律ト同一ナラシムル能ハサルハ已ムヲ得スト假想ス故ニ初ヨリ修正委員ヲ置クニハ同意セサルナリ然レモ原案ヲ以テ實地ニ施行スルキハ恐クハ意外ノ支障ヲ生セン今其一ヲ擧ケテ之ヲ論スレハ第四條ノ如キ犯則者ヲ告發ス可キヲ揭示スルモ告發後ノ處分ヲ示サス此ノ如ク不完全不明備ノ法律ニシテ果シテ能ク取締ノ趣旨ヲ貫徹セシムルヲ得ヘキカ決シテ能ハサラン若シ此取締ヲ行政處分ニ委シ以テ一定ノ法律ト爲サ、ルナレハ猶ホ可ナリ苟モ一定ノ法律ト爲シテ完全明備ヲ缺クハ是レ徒ニ具文ノミ何ノ効用力之レ有ラン且本案ハ外國人ニモ關係スルヲ以テ決シテ草卒ニ看過ス可キニ非ス寧ロ一タヒ內閣ニ返還シ以テ其再考ヲ俟ツニ如カス因テ

廢案說ニ同意ス

○六十番 中村直 本官モ廢案說ニ同意ス初メ修正委員ヲ置ク建議ニ同意セシハ好修正ヲ得テ原案ノ缺漏ヲ補完センコトヲ希望セシモ已ニ建議ノ消滅セシ以上ハ廢案說ニ同意セサルヲ得サルナリ

○一番 山口尚芳 修正委員ヲ置ク建議已ニ行ハレサルヲ以テ今ヤ廢案說ヲ賛成セサルヲ得ス本案第四條ハ深く思考ヲ下スニ隨ヒ愈ヨ其不明不備ナルヲ見ル本條ニ帝國ノ文字ヲ用ヒタル旨意ヲ內閣委員ニ質スニ答ヘテ曰フ本案ハ外國人ニ示ス者ナレハ其國文ニ翻譯セシムルノ便宜ヲ圖ルト然ルニ本官ノ考フル所ヲ以テスレハ單ニ帝國ト言フキハ決シテ其外人ヲ合稱スルトハ解ス可ラス果シテ合稱セントナラハ必ス米露日等ノ文字ヲ用ヒテ彼我相對セシムルヲ要ス

又單ニ日本人ノミヲ指ストスレハ故サラニ帝國ノ文字ヲ用ウルヲ要セス此ノ如キ曖昧遊移ノ法文ヲ外國人ニ示スハ唯彼レノ一察ヲ買フニ過キス又告發ノ件タル犯則者ノ港内ニ滯泊スル時ヲ以テ告發スルノ意ナランモ其犯則ニ係ル物品ノ顯露セサル以上ハ警察官ト雖モ一一ニ船内ヲ搜索スルコトヲ得ス且ヤ船内ニ犯則ニ係ル物品ヲ積載スルモ其犯則者ニシテ北海道内ニ獵獲シタルコトヲ自由セサルモハ漫ニ罰ヲ加フルヲ得ス幸ニ老實ナル外國人ナラハ或ハ其自白ヲ萬一ニ望ム可キモ是レ決シテ犯則者ノ普通ノ情ニ非サラシ且其犯則者ノ外國人ナルモ我邦在留領事ニ告發スルナランモ其何人ニ訴フ可キヤヲ明揭セス實ニ不明不備ノ法律ト謂フ可シ況ンヤ此法律ニ告發ノ事ヲ掲ケサルモ今日別ニ密賣ニ關スル法則アレハ

外國人ハ必ス此法則ニ依據シ肯テ本案ノ處分ニ服セサル可シト信ス然レハ本案ハ徒ニ具文タランノミ故ニ本官ノ此法律ヲ以テ外國人ノ笑柄ニ供スル者ト爲スナリ顧フニ此取締法タル魯米二國公使ヨリ申請シタル者ナリトセハ尤モ詳細ニ調査ヲ加ヘサル可ラス是レ本官等ノ反覆辯論スル所以ニシテ内閣總理大臣ノ本案ヲ本院ノ議ニ付スルノ意モ亦此ニ外ナラサル可シ元來内閣ハ政務甚々多端ナレハ詳細ニ調査ヲ爲ス能ハサラン故ニ諸法案ノ一タヒ成ルヤ各專内家ニ分付シテ之ヲ審議セシムルヲ要ス然ルニ内閣委員ノ云フ如ク本案ヲ以テ完全無缺ノ者ト認ムルナラハ何ソ本院ノ議定ヲ經ルヲ須井ン約スルニ本案ノ如キハ取締法ノ名義ヲ以テ海關輸入ノ稅則ニ一分ノ寬典ヲ與フルニ過キス締ルヲ原案ヲ以テシテ取締ノ

實効ヲ收ム可シトスルハ誤認ノ甚シキ者トス思フニ此法案ノ如ク
 ナレハ外國船ニシテ一時日本國內ノ某港内ニ繫泊スルキハ警察官
 直ニ派出シテ探偵セサル可ラス果シテ探偵ノ効ヲ奏スルト爲スモ
 外國人タル者何如ソ日本領北海道ニ於テ獵獲シタリト陳白スル有
 ランヤ又「市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ」
 云云ノ如キ謬誤ノ尤モ大ナル者ニシテ此等販賣ノ事ハ貿易上ノ規
 則ニ於テ密賣品ト看做シ以テ沒收ニ付スルヲ成規ト爲ス決シテ取
 押ヘテ告發スルニ非ス然レハ本案ハ既ニ貿易上ノ規則ニモ抵觸ス
 ル者ト謂フ可シ此ノ如キ錯雜曖昧ノ法文ハ僅々タル修正ノ能ク盡
 クス所ニ非ス故ニ已ムヲ得ス廢案論ニ左袒スルナリ本官ハ素ト本
 案ヲ内閣ニ返還スルヲ望マサルモ現行法律ニ反對スル有ルヲ以テ

再思ヲ請ハント欲スルノミ且本案ヲ實行スルニハ各國公使ニ協議
 スルナラン其時彼レ承認セサルキハ本案ハ遂ニ發布スルヲ得サラ
 ン故ニ本案ヲシテ完全無缺容喙ス可ヲサル法文ト爲ラシメン「ヲ
 望ムナリ

退席

二番

伊東 祐啓

同

二十一番

福原 實

同

三十一番

田邊 太一

○十三番 清岡 公張 本官ハ第一讀會以來修正委員ヲ置ク建議ニ同意ナリ
 シモ遂ニ議場ニ行ハレサリシハ甚タ遺憾ナリ因テ已ムヲ得スシテ
 五十六番ノ廢案說ニ左袒スルニ至レリ内閣ニ於テモ折角ニ此規則
 ヲ設ケラレタルナレハ廢棄ニ付スルハ本官ノ欲スル所ニ非サレ

原案ノマ、ニ施行スルハ是亦心ニ安セサル所トス内閣委員ノ本案ヲ以テ取締上ニ必要ナリト爲スノ旨意ハ已ニ明カニ領會セルモ多少ノ修正ヲ加フルニ非サレハ之ヲ設ケサルト異ナラス果シテ本案ヲ以テ今日ニ必要ナリト爲セハ何ソ附スルニ罰則ヲ以テセサルヤ凡ソ法ヲ設ケテ取締ヲ爲サントセハ必ス制裁力ヲ付スルヲ要ス若シ之レ無ケレハ徒法ノミ何ノ効用カ之レ有ラン蓋シ此法ヲ以テスルモ徳義ヲ有スル人ヲ管制スルニハ或ハ行ハル可キモ獵獲ノ禁ヲ犯ス者ノ如キハ決シテ徳義ヲ有スル人ニ非ス然ラハ則チ此法タル徒ラニ取締ノ名目ヲ有スルノミ決シテ實効ヲ奏スル能ハス此ノ如キハ外國人ノ嘲笑ヲ受ケサラント欲スルモ得ヘケンヤ故ニ本案ハ一旦之ヲ内閣ニ返還シ以テ再考ヲ請フヲ上策ト爲ス是レ本官ノ五

十六番ニ同意スル所以ナリ

○十九番 福羽美靜

本官モ廢案說ヲ賛成ス其理由ハ各官ノ辯論ニ因テ明

白ナレハ今聊カ要點ノミヲ舉ケンニ第一條ノ「明治十七年」云々ノ文字ハ題號ノ「販賣規則」ノ文字ト照應セス題號ニ販賣規則ト言ヘハ但書却テ本文タルカノ疑ヒ有リ又第四條ニ「告發スヘシ」ト言フモ罰則ヲ附セサルハ完全ヲ缺ク然レモ本案ハ外國人ニ關係ヲ有スル者ニシテ苟モ治外法權ノ存スル限りハ奈何トモスル能ハサラン姑ク機會ヲ待ツニ如カス

○議長 五十六番ノ廢案說ハ定數ノ賛成者アルカ故ニ問題ト爲ス

○四十四番 安藤則命

本案ニ對シテハ各官ノ精細ナル議論ヲ聞ケリ然レ

モ本案ハ素ト外國人ニ關係スル者ナレハ設令ヒ修正ヲ加ヘテ嚴格

ナル取締法ト爲スモ之ヲ外國人ニ施行スルヲ得ス又告發後ノ處分何如ノ異論アルモ是等ハ暫ク主務省ノ處分ニ委シテ可ナリ故ニ本案ニ於テハ大體ノ取締法ヲ設クルノミニシテ足レリトス因テ原案ヲ賛成ス

○四十九番 伊丹重賢 現問題ニハ同意セス顧フニ曩キニ醬油稅則菓子稅則兩案ノ本院ノ議定ニ付セラレタルヤ各官之ニ對シテ廢案說ヲ試ミ而シテ其旨意タル全體ヲ非視スルニ在リ即チ其法律ヲ施行スルハ尙ホ早シト爲シ且之レ民心ニ觸ルト云フニ存セリ然リ而シテ只今某議官ノ廢案說ヲ聽クニ第四條ニ罰則ヲ附セサルヲ非トシ又ハ其但書ハ外國人ノ笑柄ト爲ルト云フノミ之ヲ要スルニ本案ヲ目シテ不明不備ト云フニ止マル決シテ大體上此等取締法ヲ無用ト爲ス

ニ非ス果シテ然ラハ其不明不備ノ各點ヲ修正シテ明備ノ法律ト爲スハ即チ吾儕議官ノ職分ナラスヤ決シテ漫然ニ廢棄ニ付ス可キニ非ス前キニ本官ハ竊カニ修正委員ヲ置ク建議ノ議場ニ行ハルヲ希望セシニ其遂ニ消滅ニ歸シ而シテ廢案說ノ問題ト爲リシハ尤モ遺憾ト爲ス所ナリ故ニ現問題ニハ同意ヲ表スル能ハス

○議長 現問題ノ決ヲ取ラン此ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十一人

○議長 廢案說ハ同意者少數ナルヲ以テ消滅ス第一條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條 臘虎并ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルト

キハ獵船ノ名噸數乗組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ常ニ船檣又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條 臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

○議長 可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸

港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ

但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國內ニ輸入スルコトヲ得

○議長 可決ト認メ此ニ第三讀會ヲ終ル本案可決ノ旨ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午後零時十五分閉場

司法省文庫

第 號

5239

